

<u>科目名</u>	<u>科目担当代表教員</u>	<u>ページ数</u>
キャリア形成	木村 悠里菜	2
物理学	松岡 審爾	9
看護学英語文献講読	榎本 常子	18
看護教育学	木口 幸子	25
成人看護学の展開Ⅲ	尾形 裕子	32
老年看護学の展開Ⅱ	辻 幸美	46
小児看護学の展開Ⅱ	横山 佳世	55
母性看護学の展開Ⅱ	多賀 昌江	64
精神看護学の展開Ⅱ	井上 仁美	73
在宅看護学の展開Ⅱ	小橋 拓真	82
看護研究Ⅰ	佐藤 洋子	91
看護研究Ⅱ	坂東 奈穂美	100
看護研究Ⅱ	坂東 奈穂美	114
看護臨床判断	佐藤 洋子	128
看護起業論	高岡 哲子	137
看護マネジメント論	坂東 奈穂美	144
リスクマネジメント論	坂東 奈穂美	153
国際看護学	榎本 常子	160
災害看護学	水野 愛子	167
成人看護学実習	尾形 裕子	174
老年看護学実習	辻 幸美	183
老年看護学実習	辻 幸美	192
小児看護学実習	横山 佳世	201
母性看護学実習	多賀 昌江	210
精神看護学実習	井上 仁美	219
地域・在宅看護論実習	鹿内 あずさ	228
在宅看護学実習	鹿内 あずさ	237
臨床判断実習	小橋 拓真	246
看護実践マネジメント実習	坂東 奈穂美	255

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		教養科目 社会と制度					
科目名		キャリア形成《2022カリ》				ナンバリング	1135
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	木村 悠里菜						

授業の位置づけ

本科目は、社会で活躍する事を視野にいれ、「キャリア」・「キャリアデザイン」の重要性を学ぶ。加えて、これらにとって必要なスキルのひとつである「人間関係づくりとコミュニケーション」を理解し、役立てるための科目である。なお本科目は、「キャリア入門」の発展となる。

授業の概要

これからの人生を、職業を通じて社会に貢献し、生計を立て、また職業人として日々充実感を持つことができるよう、自らの職業観・勤労観を培うとともに、自らの生き方や生活デザインについて基本的な展望を身につける。

到達目標

- ・「キャリア」や「キャリアデザイン」、「計画的偶発性」を説明できる。
- ・「人間関係づくりとコミュニケーション」の5つの視点、「社会人基礎力」について論じることができ、活用することができる。
- ・キャリアに関する具体的な事例に対し、「人間関係づくりとコミュニケーション」の5つの視点、「社会人基礎力」から説明できる。

授業の方法

- ・パワーポイントによるプレゼンテーション資料と教科書、動画等を併用しながら、講義形式とアクティブラーニングの手法を取り入れた演習方式の授業を実施する。
- ・理解度確認のために、期末レポートを実施する。

ICT活用

- ・パワーポイントによるプレゼンテーション資料と教科書、動画等を併用しながら、視覚的に内容が理解しやすい授業を実施する。
- ・Google Classroomを活用し、配布資料を共有するため、授業前に各自印刷し持参する。

実務経験のある教員の教育内容

大手消費財メーカーのマーケティング職や外資系コンサルティングファームでの経営コンサルタント職等の実務経験を活かして、「キャリア」・「キャリアデザイン」・「人間関係づくりとコミュニケーション」について実例を交えた具体的な授業を実施する。

課題に対するフィードバックの方法

各講義において振り返りを実施し、学生の理解度の確認を行う。加えて質問については、解説を適宜実施する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	オリエンテーションの実施と、「キャリア」・「キャリアデザイン」・「計画的偶発性」などを理解する。	・「キャリア」の意味やイメージについて思いつくまに考える。 ・「キャリア」の意味について調べる。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第2回	人生曲線、パーソナリティ検査、ジョハリの窓などを学び、テストを実施することで自己理解を深める。「社会人基礎力」について学ぶ。	家族や友人、知人などから、自分自身がどのようにみえているかをヒアリングする。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第3回	人生曲線などの作成や、基本的なORJIサイクル・落とし穴などの理解をとおして、「人間関係づくりとコミュニケーション」のきつづくの視点などを理解する。	出生から現在までの人生の中で、印象に残った出来事を整理した上で、今後の人生の見通しを立てる。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			

第4回	コミュニケーションの分類を学んだ上で、アサーティブな表現などを中心に理解することで、「人間関係づくりとコミュニケーション」のうけいれるの視点などを理解する。	相手を尊重し、自分の意見や感情をうまく相手に伝えるためのコミュニケーション方法を考える。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第5回	不合理な信念(ビリーフ)やABCD理論などを学び、「人間関係づくりとコミュニケーション」のむきあうの視点などを理解する。	自分が持つ思い込みにどのようなものがあるのかを考える。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第6回	ライフ・キャリアのレインボー、統合的ライフ・プランニング、価値観、人間の能力の3つの領域などを学ぶことで、「人間関係づくりとコミュニケーション」のみつめる・みとおすの視点などを理解する。	自分がどんなことに価値を見出し、やる気を起こすのかを考える。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			

第7回	社会人基礎力などを理解する。加えて動画の視聴を通して学ぶ。	様々な人々と仕事をするために必要なことを考える。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第8回	これまでの講義の総括を実施する。加えて、キャリアデザインなどについて考える。	なりたい自分ややりたい仕事について考えた上で調べる。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	60	期末レポート
その他	40	準備学習・事後学習の状況・授業態度や意欲・グループワークなどの状況など
教科書		
人間関係づくりとコミュニケーション/山内雅恵(監修)、船木幸弘(編著)他/金子書房		
参考文献		
授業内で順次紹介する。		
履修条件・留意事項等		

- 講義資料はGoogle Classroomにアップロードするため、各自印刷し持参
- 出欠管理は、講義内で実施予定
- グループワークが中心となるため、積極的参加が必須
- 授業態度が不適切な場合(例:私語、授業と関係のない行為)、欠席扱いとなることがある
- 本科目は、キャリア入門の振返りを含む

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		教養科目 自然と科学					
科目名		物理学≪2022カリ≫				ナンバリング	1152
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	松岡 審爾						

授業の位置づけ

科学的知識を学ぶことにより、幅広く教養を身につけるための科目である。
「運動学Ⅰ」(理学、作業)、「運動学Ⅱ」(理学、作業)、「物理療法学Ⅰ」(理学)、「物理療法学Ⅱ」(理学)、「物理療法学演習」(理学)と連携している教養科目である。
看護学科のディプロマ・ポリシー「看護学の本質を理解するために必要な、文理横断的かつ学際的な知識と論理的な思考力を有し、看護を取り巻く状況の変化に柔軟に対応できる。(思考・判断・表現)」と特に関係がある科目である。
理学療法学専攻のディプロマ・ポリシー「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・理解)」と特に関係がある科目である。
作業療法学専攻のディプロマ・ポリシー「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、作業療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる。(関心・意欲・態度)」と関係がある科目である。

授業の概要

物理学は広範な自然現象を統一的に理解しようとするものであり、全ての自然科学の基礎をなしている。ここでは、生体力学や運動学の基礎となるニュートン力学および熱力学の基本的な考えや電磁気学の基礎法則を理解し、剛体の力学、変形体の力学および生体組織の力学的性質および電気、電磁波、超音波の性質や生体作用について学習する。

到達目標

1. ニュートンの法則にもとづいて運動方程式を記述し、物体の運動を求めることができる。
2. 力のモーメントを用いて剛体のつりあいの式を記述できる。
3. 変形する物体の力学的性質や波動の性質について説明できる。
4. 仕事とエネルギー、力学的エネルギー保存の法則、熱エネルギーについて説明できる。
5. 電磁現象の概略(電気力や磁力の原因、電磁誘導、電磁波の性質)を説明できる。

授業の方法

パワーポイントと配布印刷物を用いて講義形式ですすめる。
理解度確認テストを実施するとともに、コメントを書かせる(全15回)。
毎回の内容について宿題を課す(1回目～14回目)。
9回目と15回目に試験を実施する。
フィードバックとして理解度確認テストと宿題の解説を行う。

ICT活用

Google Formのテスト作成機能を用いて、確認テストと宿題として練習問題を提供し自主学習を促す。
授業の動画(パワーポイントの説明に音声を入力したもの)をGoogle Classroomにアップし復習に活用できるようにする。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして理解度確認テストおよび宿題の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	はじめに 物理学で用いられる単位系について学ぶ。 力学1 【運動の記述】直線上を運動する物体の速度、加速度の計算方法を習得する。また、平面上の運動における物体の位置の表しかた、速度と速さの違いを理解する。	教科書のp5、p9～p10、p12、p14、p19、p25～p28を読んでおく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第2回	力学2 【運動の記述】平面上の運動における物体の加速度の向きを知る方法を理解する。【ニュートンの運動の法則】ニュートンの運動の3法則である慣性の法則、運動の法則($F=ma$)および作用反作用の法則を理解する。 ・物体に働く力の矢印の書き方を習得する。 ・等速円運動する物体に働く力の向きを理解する。	教科書のp29、p34～p37、p39～p40、p73～p75を読んでおく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第3回	力学3 【ニュートンの運動の法則の応用】・地球上の物体に働く重力と落下運動について理解する。・床等に置かれた物体が静止するために垂直抗力が働くことが必要なことを理解する。物体の運動方程式を立てることによって、物体に働く力や加速度を求める方法を習得する。・平面における運動式を理解する。	教科書のp41,p43、p46～p47を読んでおく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			

第4回	力学4【ニュートンの運動の法則の応用】・力の合成と分解を理解する。・静止摩擦力、最大摩擦力、動摩擦力のちがいを理解する。・垂直抗力と摩擦係数から最大摩擦力、動摩擦力を計算する方法を習得する。斜面上の物体の運動方程式を立てる方法を習得する。	教科書のp42～p43、p45下半分、p48～p50を読んでおく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第5回	力学5【剛体の力学】・大きさがあるが変形しないというモデルである「剛体」の概念を理解する。物体の回転状態を変化させる作用である力のモーメントの計算方法を習得する。力のモーメントをもとにして重心という概念を理解できること、また重心の位置を計算する方法を習得する。	教科書のp42、p51を読んでおく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第6回	力学6【剛体の力学】・剛体の力学—剛体が回転せずにつりあうための条件を理解し、これに基づいて剛体に働く力を求める方法を習得する。 【仕事とエネルギー】仕事と仕事率の定義を理解する。	教科書のp44～p45、p52～p53、p59～p62を読んでおく。(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			

第7回	力学7【仕事とエネルギー】・重力の位置エネルギー、運動エネルギーの計算方法を習得する。・仕事と運動エネルギーとの関係から力学的エネルギー保存則が導かれることを理解する。・力学的エネルギー保存の法則を用いて運動する物体の速さを求める方法を習得する。・より広い意味のエネルギー保存則を理解する。 【慣性力】・非慣性系における、みかけの力(慣性力)を学び、遠心力が慣性力であることを理解する。	教科書のp62～p66、p93を読んでおく。(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第8回	力学8【変形する物体の静力学】・力を加えると変形するが、力を取り除くと元に戻る性質をもつ物体を弾性体という。弾性体のひずみが小さいとき、弾性体の変形のもととなる応力はひずみに比例する。このときの比例定数が弾性定数であり、これを用いて物体の変形量を計算する方法を習得する。また、いくつかの弾性率(ヤング率、剛性率)の違いを知る。	教科書のp101～p104を読んでおく。(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第9回	力学9【流体の力学】・流体の力学—流体とはなにか、またその圧力の特徴を理解する。流体の密度や、ある深さにおける流体の圧力の計算方法を習得する。粘性がずれ応力であることを理解する。 ★授業の1回目から7回目の内容を範囲とした試験を行う。	教科書のp95～p101、p104～p108を読んでおく。(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			

第10回	【波動】・波の表し方および波の基本式を理解する。・正弦波が波の基本的な形であることを理解する。・波の干渉と回折について理解する。・弦に生じる定在波の固有振動の計算を修得する。・超音波の性質を学ぶ。	教科書のp114～p124を読んでおく。(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第11回	電磁気学1【電気力】・電気現象を引き起こす電荷について理解する。・真空中の電荷の間に働く力である電気力(クーロン力)の性質を学ぶ。電気力を働かせる空間である電場の概念を理解する。電位の定義を理解し電位差と電気量から電気力がした仕事量を計算する方法を習得する。・電場によって物体表面に電荷が現れる現象である静電誘導について理解する。	教科書のp158～p161、p162～p171を読んでおく。(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第12回	電磁気学2【電流・電気回路】・電流、電圧と電気抵抗との間の関係であるオームの法則を理解する。・電力およびジュール熱の計算し、抵抗の発熱量を計算する方法を習得する。・交流による電力と実効値を理解する。・電荷を蓄える装置であるキャパシタの性質を理解する。・比誘電率について理解する。	教科書のp161～p162、p164～p165、p173～p175、p177～p179、p182～p184、p206～p208を読んでおく。(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			

第13回	電磁気学3【磁場】・磁場の性質を理解する。・電流が磁場を発生されることを知り、定常電流がどのような向きの磁場を生じるかを理解する。・磁場中で運動する荷電粒子に働くローレンツ力の向き、また磁場中で電流が流れている導線に働く力を理解する。	教科書のp191～p199を読んでおく。(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第14回	電磁気学4【電磁誘導】・電磁誘導(ファラデーの法則)、磁場が時間変化することにより電場が発生することを理解する。・磁場中でコイルを動かすと、磁場が時間変化していなくてもコイルに電流が流れることを理解する。・電場の変化によって磁場の発生することを理解する。・電磁波の発生機序を理解する。	教科書のp199～p203、p212～p214を読んでおく。(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第15回	【熱力学】・熱の移動方法は主に熱伝導、対流、熱輻射の3つがある。このうち熱伝導の性質、熱輻射の性質を理解する。 ★授業の8回目から14回目の内容を範囲とした試験を行う。	教科書のp136～p144、p147、p149～p150を読んでおく。(90分)。	授業で行った全範囲について復習しておく(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各講義中に提出する理解度確認テストの提出(15回)、各回ごとの宿題の提出(14回)および授業内(9回目と15回目)に実施する試験により評価する。
その他	0	なし
教科書		
第3版 物理学入門 新装版 Web動画付／原康夫／学術出版図書		
参考文献		

医療系のための物理／佐藤幸一他／東京教学社

履修条件・留意事項等

理学療法学専攻の学生は、運動学、物理療法学の基本となるので、高校で物理基礎のみ履修の学生、それすら未履修の学生は必ず履修すること。作業療法学専攻の学生は、運動学の基本となるので履修するとよい。看護学科、健康栄養学科の学生は専門に直結するわけではないので数理分野が得意で興味があれば履修してもよい。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門基礎科目 健康支援と社会保障制度					
科目名		看護学英語文献講読《2022カリ》				ナンバリング	2387
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	梶本 常子、佐藤 洋子						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「科学的思考と創造的思考を活用して看護の発展と社会へ貢献できる研究の基本的な能力を身につけている(思考・判断・表現)」ことと特に関係がある科目である。英語文献を講読することで研究する力を身につけ、「看護研究Ⅰ」と「看護研究Ⅱ」と連携している。

授業の概要

看護学と医療・保健の質向上に貢献できる研究能力を養うため、看護学の英語文献を実際に日本語に翻訳する中で、英語の長文を講読する方法を習得し、学術文献の内容を理解できるように実践的に学ぶ。

到達目標

1. 英語文献を講読する意味が理解できる。
2. 看護学関連の英語文献を日本語に翻訳することができる。
3. 翻訳した英語文献を基に自らの考えを述べることができる。

授業の方法

講義形式と学生同士のディスカッション、発表を活用して行う。
教材は、担当教員が作成した資料を用いる。

ICT活用

レポートの提出などはclassroomを活用して行う。

実務経験のある教員の教育内容

担当教員は、看護師資格を有し臨床経験に基づいた講義を行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポートは、個別に評価する。
フィードバックは全体へ行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	コースガイダンス 授業の概要、進めかた、評価方法などについて説明する	英語論文を読むことの意義について調べておく(90分)	講義内容を振り返る(90 分)
担当教員	佐藤 洋子		
第2回	看護学関連の英語文献を講読する意義 看護学関連の英語文献を講読する必要性、講読するポイント、英語文献の検索方法(CINAHL)、文献の抽出。	英語文献の検索方法(CINAHL)について調べておく(90分)	抽出した文献を翻訳する(90 分)
担当教員	佐藤 洋子		
第3回	抽出した文献を講読する 翻訳した文献を基にディスカッションする。	抽出した文献を翻訳する(90分)	講義での助言を基に追加修正する(90分)
担当教員	榎本 常子		

第4回	抽出した文献を講読する 翻訳した文献を基にディスカッションする。	抽出した文献を翻訳する(90分)	講義での助言を基に追加修正する(90分)
担当教員	証本 常子		
第5回	抽出した文献を講読する 翻訳した文献を基にディスカッションする。	抽出した文献に対する自分の意見をまとめる(90分)	講義での助言を基に追加修正する(90分)
担当教員	証本 常子		
第6回	抽出した文献を講読する 翻訳した文献を基にディスカッションする。	抽出した文献に対する自分の意見をまとめる(90分)	講義での助言を基に追加修正する(90分)
担当教員	証本 常子		

第7回	発表会(発表・講義) 抽出した文献の概要と自身の考えを発表して、他者から意見をもらう。	発表準備を行う(90分)	講義での助言を基に追加修正する(90分)
担当教員	榎本 常子、佐藤 洋子		
第8回	本講義のまとめ 本講義の内容を振り返る。 最終レポート:抽出した英語文献の概要と自身の考えをレポートとして1200字程度にまとめる。	これまでの講義内容を振り返る(90分)	最終レポートを作成する(90分)
担当教員	佐藤 洋子		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	最終レポート
その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		
必要時講義中に提示する。		
履修条件・留意事項等		

私語、必要時以外の携帯の使用を禁止する。
学習は主体的に行う。
評価対象物への不正行為は、D判定となる場合があります。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 基礎看護学					
科目名		看護教育学				ナンバリング	3424
配当年次	4年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	木口 幸子						

授業の位置づけ

この科目は、ディプロマポリシーとして、学習への主体性を有し、自律的な行動ができる専門職者として研鑽し続ける基本的能力を身につけることを目指す。また、社会の一員としての責任を有し、専門職倫理観を基盤としたヒューマンケアの基本的な能力を身につけることを目指す。加えて、この科目は、カリキュラム全体の外観の必要性があるため、教養科目、専門基礎科目、専門基礎科目、専門科目の全ての科目と関連する。

授業の概要

看護教育学とは何かを理解し、わが国における看護教育制度の歴史的変遷と今日の課題を学ぶ。これらを通して、カリキュラムの編成過程、教授＝学習過程、教育評価について把握し、専門職として発展するために、研究成果を活用しながら、大学における看護学を学ぶ意義を考える。

到達目標

1. 看護教育学の概念を理解し、わが国の看護教育の意義と歴史の変遷を概観する。
2. わが国の看護教育制度の現状と課題を理解する。
3. 看護教育におけるカリキュラムの概要を理解し、授業展開・教育評価の基本を理解する。

授業の方法

パワーポイント及び動画を使用する。
グループワークを取り入れ、ディスカッション形式も取り入れる。

ICT活用

無し

実務経験のある教員の教育内容

修士課程において看護教育学を専攻し、看護教育学について幅広い知識を有している。この経験を活かして看護教育学について授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

コメントを記載し、フィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	ガイダンス 看護教育学の定義と関連用語を学ぶ	看護教育学、看護学教育学の違いを調べる。 (必要時間90分)	テキスト第1章を読み、A4版一枚要約する。 (必要時間90分)
担当教員	木口 幸子		
第2回	わが国の看護教育の制度の現状と歴史的変遷を学ぶ	わが国の看護教育制度について調べる。 (必要時間90分)	テキスト第2章を読み、A4版用紙1枚にまとめる。 (必要時間90分)
担当教員	木口 幸子		
第3回	わが国の看護教育制度を通して、今日的な課題を学ぶ	第2回目の事後学習について説明できるように準備する。 (必要時間90分)	わが国の看護基礎教育の現状と課題についての意見をA4版1枚にまとめる。 (必要時間90分)
担当教員	木口 幸子		

第4回	看護教育におけるカリキュラムの編成を学ぶ	北海道文教大学の教育理念及び看護学科の教育理念を読み、自分なりに解釈し説明できるように準備する。 (必要時間90分)	テキスト第3章を読み、A4版1枚にまとめる。 (必要時間90分)
担当教員	木口 幸子		
第5回	大学における学習の目的と指定規則について学ぶ 大学において看護学を学ぶ意義を確認する	テキストp458～477及びp4507～516を読む。 (必要時間90分)	大学の目的、指定規則を背景にわが国で起きている看護基礎教育の課題をA4版用紙1枚にまとめる。(必要時間90分)
担当教員	木口 幸子		
第6回	看護教育における授業展開を学び、教授＝学習過程の意味を学ぶ	入学時から学んだ講義演習実習について、困難だったこと、克服できたことを考えてくる。 (必要時間90分)	テキストp207～246を読み、A4版用紙1枚にまとめる。(必要時間90分)
担当教員	木口 幸子		

第7回	看護教育における教育評価について学ぶ	入学時から現在までのすべての科目から受けた評価について自己分析する。（必要時間90分）	テキスト第6章を読み、A4版用紙1枚にまとめる。（必要時間90分）
担当教員	木口 幸子		
第8回	実習における授業展開を学ぶ 専門職の意味を学び、看護専門職として発展するために 研究成果の意味と活用を学ぶ まとめ	テキストp251～300まで読んでくる。（必要時間90分）	テキストp283～293まで読み、 A4版用紙1枚にまとめる。（必要時間90分）
担当教員	木口 幸子		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	提出物50% レポート50%
その他	0	
教科書		
杉森みど里, 舟島なをみ(2024). 看護教育学 第8版, 医学書院, 東京.		
参考文献		
舟島なをみ監修(2024):看護実践・教育のための測定用具ファイル,第4版, 医学書院,東京 グレッグ美鈴、池西悦子編(2023):看護教育学 看護を学ぶ自分と向き合う, 南江堂、東京		
履修条件・留意事項等		

評価対象物において代筆や盗用等の不正行為があった場合にはD判定となる場合があります。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 成人看護学					
科目名		成人看護学の展開Ⅲ《2022カリ》				ナンバリング	3520
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	2
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介						

授業の位置づけ

成人看護学は成人看護学の基礎、展開Ⅰ～Ⅲ、臨地実習の科目で構成されている。「成人看護学の基礎」では、成人期に特徴的な健康問題と看護を学び、その基礎の学びを基盤として「成人看護学の展開Ⅰ・Ⅱ」では経過別に疾病や治療が対象者に及ぼす影響とそれに応じた看護を学んだ。これらの科目に引き続き、この科目では成人期にあり入院治療を必要とする事例に対する看護過程を展開することにより、既習の知識・技術・態度の統合を図り、「成人看護学実習」「看護研究Ⅱ」に繋がる科目である。「病態・治療学Ⅰ・Ⅲ」「薬理学」「臨床検査学」などの疾病・治療に関する科目と連携する。DP「看護の基盤となる問題解決能力を活用して看護過程の展開や臨床判断を行うための基本的な能力を身につけている(思考・判断・表現)」ことと特に関係がある科目である。

授業の概要

成人期にある人が疾病や治療の影響により、治療・処置に関するセルフケア行動の獲得や生活の再構築が必要となる場面を設定し、看護過程を展開する。また、急性の健康障害及び救命を目的として診療・看護上の問題を解決する技能および医療機器活用のなかで患者の安全性を考慮した対応を習得する。

到達目標

- 1.事例に対して経過別看護の特性に応じた看護過程の展開ができる
- 2.ケア場面に応じた行動計画を作成し、教員の助言を受けながら模擬患者に適切なケアを行うことができる
- 3.グループワークで事例の看護過程を討議し、看護ケアの実施・評価を共有できる
- 4.学生としての役割・責務を果たし、学習への主体性を有した自律的な行動ができる

授業の方法

看護過程の展開・技術演習の要点については、パワーポイントと配布印刷物を用いて説明する
 指定された事例のケアに必要な技術演習を行い、模擬患者にケアを提供しながら看護過程を展開する
 看護過程の展開とケアの実施は、教員の指導を受けながらグループワークを中心に行う
 グループでの学びと自己学習により、成人期・慢性期看護・周術期看護の特徴に応じた看護過程を各自で展開する

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

総合病院で看護を実践した経験のある教員が臨床に基づいて指導にあたる

課題に対するフィードバックの方法

課題に対するコメントを返す
 課題の解説は授業の中でフィードバックする

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	オリエンテーション グループと担当者の発表 事例紹介 看護過程の復習 病態アセスメント、薬剤アセスメント	シラバスを読み、到達目標、授業方法、成績評価方法を確認する 指示された事前課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第2回	周術期の看護過程 援助①術後観察;行動計画の作成	指示された課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第3回	アセスメントの視点	指示された課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		

第4回	援助①術後の観察;行動計画の作成 術後観察、呼吸・循環を整える看護ケア技術練習	指示された課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第5回	援助①術後観察;行動計画の作成	指示された課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第6回	援助①術後の観察	指示された課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		

第7回	アセスメントの作成	指示された課題を行う (90分)	看護過程記録の追加、修正を行う (90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第8回	全体像・問題リスト・看護計画の作成	指示された課題を行う (90分)	看護過程記録の追加、修正を行う (90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第9回	援助②退院指導;行動計画の作成	指示された課題を行う (90分)	看護過程記録の追加、修正を行う (90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		

第10回	援助②退院指導;練習	指示された課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第11回	全体像・問題リスト・看護計画の検討 援助②退院指導;行動計画の作成	指示された課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第12回	援助②退院指導;実施・評価	指示された課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		

第13回	理解度確認テスト1 周術期 看護過程の解説	指示された課題を行う (90分)	看護過程記録の追加、修正を行う (90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第14回	事例紹介 病態アセスメント、薬剤アセスメント	指示された課題を行う (90分)	看護過程記録の追加、修正を行う (90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第15回	アセスメントの視点(クラスター1.2)	指示された課題を行う (90分)	看護過程記録の追加、修正を行う (90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		

第16回	援助③入院時の問診、フィジカルアセスメント;実施・評価	指示された課題を行う (90分)	看護過程記録の追加、修正を行う (90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第17回	アセスメントの視点(クラスター3～6) 援助③ 入院時の問診、フィジカルアセスメント;行動計画の作成	指示された課題を行う (90分)	看護過程記録の追加、修正を行う (90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第18回	アセスメントの視点(クラスター7～11) 援助④フィジカルアセスメント、セルフケア指導;行動計画の作成	指示された課題を行う (90分)	看護過程記録の追加、修正を行う (90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		

第19回	援助④フィジカルアセスメント、セルフケア指導;練習 行動計画の修正	指示された課題を行う (90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第20回	援助④フィジカルアセスメント、セルフケア指導;練習 行動計画の修正	指示された課題を行う (90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第21回	全体像・問題リスト・看護計画の作成 援助④フィジカルアセスメント、セルフケア指導;行動計画の修正	指示された課題を行う (90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		

第22回	援助④フィジカルアセスメント、セルフケア指導;実施・評価	指示された課題を行う (90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第23回	アセスメントから全体像・問題リスト・看護計画の検討	指示された課題を行う (90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第24回	援助⑤退院指導;行動計画の作成	指示された課題を行う (90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		

第25回	援助⑤退院指導;行動計画の作成、練習	指示された課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第26回	援助⑤退院指導;行動計画の作成、練習	指示された課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第27回	援助⑤退院指導;行動計画の修正	指示された課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		

第28回	援助⑤退院指導;実施・評価	指示された課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第29回	看護計画の実施・評価	指示された課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第30回	理解度確認テスト2 看護過程の解説	指示された課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	事例の看護過程と課題の提出物の内容・提出状況、演習・グループワークへの参加態度
その他	0	なし
教科書		
成人看護学の基礎、成人看護学の展開Ⅰ・Ⅱ、看護病態治療学Ⅰ・Ⅲで使用した教科書を用いる		
参考文献		

ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 第6版 ノーヴェルヒロカワ
 NANDA- I 看護診断定義と分類2024-2026 原書第13版 医学書院
 病気がみえる vol.3糖尿病・代謝・内分泌 第5版 メディックメディア
 病気がみえる vol.1消化器 第6版 メディックメディア

履修条件・留意事項等

本科目の単位修得が無ければ、成人看護学実習の履修は不可
 課題記録物の遅延・未提出は減点する

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 老年看護学					
科目名		老年看護学の展開Ⅱ《2022カリ》				ナンバリング	3535
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	辻 幸美、初見 温子						

授業の位置づけ

本科目は、看護学科のDP「看護の基盤となる問題解決能力を活用して看護過程の展開や臨床判断を行うための基本的な能力を身につけている。」「看護の専門知識を活用して健康の状態やその変化に応じて実践する能力を身につけている」を達成するための老年看護領域に帰属する科目である。「老年看護学の基礎」と「老年看護学の展開Ⅰ」を基盤として具体的な支援を学び、「老年看護学実習」の履修に向けて、老年看護学を実践する方法論をシミュレーションする。

授業の概要

本科目は、老年看護の対象である高齢者の特徴をふまえ、生活機能からみた適切な看護展開ができるように学習する。学習内容は、事例に基づいた看護計画の立案と実施・評価である。この際、高齢者の健康障害や生活障害の多様性、個人差を的確にアセスメントし、個別的な支援が行えるように学習する。

到達目標

老年看護の対象である高齢者の特徴をふまえ、生活機能からみた適切な看護展開が実践できる。 目標： 1. 老化による身体症状や病気を持ちながらも高齢者自身が望む生活にできるだけ近づけられる看護計画が立案できる。 2. 事例の生活の一場面から支援を判断し、実践できる(シミュレーション)。 3. 実践した看護を評価できる。
--

授業の方法

講義とカンファレンスや実技実践を含む演習を行う。講義ではパワーポイントと配布印刷物、既習の老年看護学領域のテキスト等を用いてすすめる。カンファレンスではグループディスカッションを行う。理解度を確認するために、課題を3回実施する。

ICT活用

Classroomの活用

実務経験のある教員の教育内容

脳神経外科系病院での22年間の勤務経験を活用して看護過程の展開を教授する。 様々な病期にある高齢者を看護してきた経験を活かし、教授する。
--

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題にはコメントし、返却する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	ガイダンス 学習内容: 1.本科目の位置づけとシラバスを確認する。 2.老年看護学の哲学的基盤と目標志向型思考に基づいていることを学習する。 行動目標: 1.ガイダンス内容を理解し、自らが学習すべき内容と学習課題を明確にする。 2.老年看護学の目標志向型思考を説明できる。 紙上事例配布	老年看護学の基礎、老年看護学の展開Ⅰの講義資料を整理して復習する。(90分)	・シラバスに沿って自身の学習計画を立案する。 ・問題解決型思考と目標志向型思考の違いをまとめる。(90分)
担当教員	辻 幸美		
第2回	高齢者を対象とした看護過程の展開方法 学習内容:老年看護学の哲学的基盤と目標志向型思考に基づいた看護過程の展開方法を学習する。 行動目標:アセスメントから全体像を描き看護計画立案・実施・評価までのプロセスが説明できる。	配布された事例を熟読し、情報を整理する。(90分)	配布された事例の情報の中で、看護に必要な情報を整理する。(90分)
担当教員	辻 幸美		
第3回	紙上事例を用いた看護計画の立案(カンファレンス) 学習内容:紙上事例に関するカンファレンスにより、事例の対象理解を深める。 テーマ:紙上事例の看護計画立案に必要な情報とは 行動目標: ・自身の意見と他者の意見の違いを考察し、支援に必要な情報の取捨選択ができる。 ・看護に必要な情報を説明できる。	配布された事例の情報を整理し、カンファレンスのため自身の意見をまとめる。(90分)	他者の意見を聞き、準備学習で記載したアセスメントとの比較から見直し、修正する。(90分)
担当教員	辻 幸美		

第4回	紙上事例を用いた看護計画の立案(カンファレンス) 学習内容:紙上事例に関するカンファレンスにより、事例の対象理解を深める。 テーマ:アセスメントの分析・解釈<睡眠・休息と覚醒・活動> 行動目標: ・自身の意見と他者の意見の違いを考察し、支援に必要な情報の取捨選択ができる。 ・紙上事例の活動と休息の説明ができる。	講義内容と自己学習内容を踏まえて睡眠・休息と覚醒・活動について、自分の意見をまとめる。(90分)	他者の意見を聞き、準備学習で記載したアセスメントとの比較から見直し、修正する。(90分)
担当教員	辻 幸美		
第5回	紙上事例を用いた看護計画の立案(カンファレンス) 学習内容:紙上事例に関するカンファレンスにより、事例の対象理解を深める。 テーマ:アセスメントの分析・解釈<食事> 行動目標: ・自身の意見と他者の意見の違いを考察し、支援に必要な情報の取捨選択ができる。 ・紙上事例の食事と排泄の説明ができる。	講義内容と自己学習内容を踏まえて食事について、自分の意見をまとめる。(90分)	他者の意見を聞き、準備学習で記載したアセスメントとの比較から見直し、修正する。(90分)
担当教員	辻 幸美		
第6回	紙上事例を用いた看護計画の立案(カンファレンス) 学習内容:紙上事例に関するカンファレンスにより、事例の対象理解を深める。 テーマ:アセスメントの分析・解釈<排泄> 行動目標: ・自身の意見と他者の意見の違いを考察し、支援に必要な情報の取捨選択ができる。 ・紙上事例の食事と排泄の説明ができる。	講義内容と自己学習内容を踏まえて排泄について、自分の意見をまとめる。(90分)	他者の意見を聞き、準備学習で記載したアセスメントとの比較から見直し、修正する。(90分)
担当教員	辻 幸美		

第7回	紙上事例を用いた看護計画の立案(カンファレンス) 学習内容:紙上事例に関するカンファレンスにより、事例の 対象理解を深める。 テーマ:アセスメントの分析・解釈<身じたく> 行動目標: ・自身の意見と他者の意見の違いを考察し、支援に必要な 情報の取捨選択ができる。 ・紙上事例の身じたくとコミュニケーションの説明ができる。	講義内容と自己学習内容を踏まえて身じたくについて、自 分の意見をまとめる。(90分)	他者の意見を聞き、準備学習で 記載したアセスメントとの比較か ら見直し、修正する。(90分)
担当教員	辻 幸美		
第8回	紙上事例を用いた看護計画の立案(カンファレンス) 学習内容:紙上事例に関するカンファレンスにより、事例の 対象理解を深める。 テーマ:アセスメントの分析・解釈<コミュニケーション> 行動目標: ・自身の意見と他者の意見の違いを考察し、支援に必要な 情報の取捨選択ができる。 ・紙上事例の身じたくとコミュニケーションの説明ができる。 課題①は「紙上事例のアセスメント」で次の講義開始前 に提出	講義内容と自己学習内容を踏まえてコミュニケーションに ついて、自分の意見をまとめる。 (90分)	他者の意見を聞き、準備学習で 記載したアセスメントとの比較か ら見直し、修正する。課題①「紙 上事例のアセスメント」作成(180 分)
担当教員	辻 幸美		
第9回	紙上事例を用いた看護計画の立案(カンファレンス) 学習内容:紙上事例に関するカンファレンスにより、事例の 対象理解を深める。 テーマ:紙上事例の病態・生活機能関連図(全体像) 行動目標: ・自身の意見と他者の意見の違いを考察し、全体像を描く ことができる。 ・全体像を説明できる。 課題①提出(手元に自分の分をコピーしておく)	配布された事例の全体像を記 載し、カンファレンスのため自身 の意見をまとめる。(90分)	準備学習で記載した全体像を 見直し、修正する。(90分)
担当教員	辻 幸美		

第10回	紙上事例を用いた看護計画の立案(カンファレンス) 学習内容:紙上事例に関するカンファレンスにより、事例の対象理解を深める。 テーマ:紙上事例の看護計画実施に必要な行動計画の目標と援助内容とは 行動目標: ・支援に必要な項目の抽出ができ、行動計画を立案できる。	配布された事例の行動計画を記載し、カンファレンスのため自身の意見をまとめる。(90分)	準備学習で記載した看護の方向性と援助内容を見直し、行動計画を修正する。(90分)
担当教員	辻 幸美		
第11回	演習オリエンテーション 学習内容:演習のオリエンテーションを受ける。 行動目標: ・演習の流れが分かり、自身がどのように動いたら良いか説明できる。 課題②は「全体像と看護計画」次回の講義修了後に提出	今までの講義のまとめと課題②作成(180分)	演習ができるよう、イメージトレーニングをする。(90分)
担当教員	辻 幸美		
第12回	各グループで看護計画の実施(実技演習:実習室) 学習内容:各自で立案した行動計画を基に場面に合った支援を実施する。 行動目標:患者に合った支援が提供できる。 課題②提出	立案した計画をシミュレーションする。(90分)	演習のイメージトレーニングをする。(90分)
担当教員	辻 幸美、初見 温子		

第13回	各グループで看護計画の実施(実技演習:実習室) 学習内容:各自で立案した行動計画を基に場面に合った支援を実施する。 行動目標:患者に合った支援が提供できる。	立案した計画をシミュレーションする。(90分)	今までの知識を確認する。 課題③を行う。(90分)
担当教員	辻 幸美、初見 温子		
第14回	看護計画の評価 学習内容:実施した支援により患者の反応を読み取り、看護計画の評価方法を学習する。 行動目標:実施した支援に対する患者の反応で評価することができる。	各自で実施した支援で患者がどのように反応したのかをまとめておく。(90分)	今までの知識を確認する。 課題③を行う。(90分)
担当教員	辻 幸美		
第15回	本講義のまとめ 学習内容:老年看護学における看護過程の展開方法を確認する。 行動目標:今まで受けた講義の内容を確認し、各自で学習の振り返りができる。 課題③提出	今までの講義のまとめで不明な点を見出す。課題③作成(90分)	今までの講義をまとめ、振り返り実習の準備に活かす。(90分)
担当教員	辻 幸美		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題①40点(アセスメント) 課題②30点(全体像と看護計画) 課題③30点(行動計画と看護計画の評価)
その他	0	なし
教科書		
北川公子ほか/老年看護学(医学書院) 山田律子ほか/生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図 第4版(医学書院) 上田敏ほか/ICFの理解と活用(きょうされん)		
参考文献		

講義中に紹介する。

履修条件・留意事項等

- ・講義中は教室内で学習してください。
- ・私語・スマホの使用は禁止です。
- ・時間厳守
- ・不正は認めません。提出物の類似、代筆など疑わしい場合は全て不正とみなします。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 小児看護学					
科目名		小児看護学の展開Ⅱ《2022カリ》				ナンバリング	3553
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	横山 佳世、菅原 美保、佐藤 洋子						
授業の位置づけ							
本科目は看護学科のディプロマポリシー「看護の基盤となる問題解決能力を活用して看護過程の展開や臨床判断を行うための基本的な能力を身につけている」「看護の専門知識を活用して健康の状態やその変化に応じて実践する能力を身につけている」と特に関係する。看護学の理論や科学的根拠に基づき、子どもと家族の健康課題を解決するための柔軟な思考力と判断力を養い、また援助を実践することで、主体的に学修を継続し、自己成長につなげる意欲を養うための科目として位置づけられる。「小児看護学の基礎」「看護病態治療学Ⅱ」「小児看護学の展開Ⅰ」と連続性があり「小児看護学実習」につながる科目である。							
授業の概要							
小児看護におけるコミュニケーションと診療に伴う援助技術を学ぶと共に、子どもとその家族に関わるために必要な基本的態度を養う。さらに紙上事例を用いて子どもの健康問題・障害によりおこる子どもと家族への看護過程の展開と小児看護技術を発達段階、病時期別に学ぶ。							
到達目標							

1. 子どもの成長発達段階の特徴を考慮した子どもに特有な小児看護技術の原理・原則と根拠を説明でき、実施できる
2. 事例に対して子どもの成長・発達と健康上の問題を統合し、看護過程の展開ができる
3. 子どもの発達段階や個性に適した方法で、演習を通して看護援助を実践できる

授業の方法

看護過程の展開・技術演習の要点については、パワーポイントと配布印刷物、DVD教材を用いて説明する。
フィジカルアセスメント演習を通して、発達段階の特徴を考慮した小児看護技術とアセスメント方法について体験的に学ぶ。
紙上事例に対してグループワークでの学びと自己学習により、小児看護の特徴に応じた看護過程を各自で展開する。
シミュレーション演習を通して、本学で学修した小児看護についての知識と技術を統合する。
授業時間内に確認テストを3回行う。

ICT活用

自主学習支援(eラーニング「ナースング・スキル」の活用、Google classroomを利用したレポート・課題提出、資料提供、予習課題の提示)

実務経験のある教員の教育内容

NICUや小児病棟、外来で看護師として勤務した経験のある教員が指導を担当する。

課題に対するフィードバックの方法

提出課題については、講義の中で解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	ガイダンス (横山) 演習課題① (フィジカルアセスメント) 提示 小児看護に必要な看護技術-1 1. 小児のフィジカルアセスメント	教科書(小児看護学Ⅰ)小児看護技術のコミュニケーション・健康歴の聴取・全身状態の把握・バイタルサイン・プレパレーションp283-340を予習する(90分)	講義内容を復習し、疑問点について自己学習をする(90分) ※演習課題①(フィジカルアセスメント)に取り組む
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第2回	小児看護に必要な看護技術-2(横山) 1. フィジカルアセスメント演習課題解説 2. 演習オリエンテーション	第1回の講義内容の復習、および教科書(小児看護学Ⅰ)小児看護技術のコミュニケーション・健康歴の聴取・全身状態の把握・バイタルサイン・プレパレーションp283-340、ナースングスキルで事前に該当部分を予復習する(90分)	講義内容を復習し、疑問点について自己学習する。演習課題の回答内容を確認し、修正を行う(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第3回	小児看護に必要な看護技術-3 川崎病のフィジカルアセスメント 1. バイタルサイン測定(体温、心拍、呼吸) 2. 川崎病主症状の観察 【第3回、第4回は同日に2講続けて行う】	第1・2回の講義・演習内容の復習を行う(90分)	演習内容を復習し、疑問点について自己学習をする(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		

第4回	小児看護に必要な看護技術-4 川崎病のフィジカルアセスメント - バイタルサイン測定(体温、心拍、呼吸) - 川崎病主症状の観察 【第3回、第4回は同日に2講続けて行う】	第1・2回の講義・演習内容の復習を行う(90分)	演習内容を復習し、疑問点について自己学習をする。演習後リフレクションシートに学びをまとめる(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第5回	事例に基づく看護過程の展開-1(横山) - 小児の看護過程の特徴 - 川崎病:病態理解	看護病態治療学(川崎病)、小児看護学の展開Ⅰ(川崎病)の復習を行うこと 教科書(小児看護学Ⅱ)川崎病のある子どもと家族の看護p185-194で事前に該当部分を予習すること(60分)	講義内容を復習し、疑問点について自己学習をする(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第6回	事例に基づく看護過程の展開-2(菅原) - 川崎病の事例紹介 DVD視聴 - 情報の整理	看護病態治療学(川崎病)、小児看護学の展開Ⅰ(川崎病)の復習を行うこと 教科書(小児看護学Ⅱ)川崎病のある子どもと家族の看護p185-194、教科書(小児看護過程)第1～2章p1-37で事前に該当部分を予習する(60分)	講義内容を復習し、疑問点について自己学習をする(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		

第7回	事例に基づく看護過程の展開-3(横山) 1. 川崎病:急性期解説 確認テスト①	教科書(小児看護学Ⅱ)川崎病のある子どもと家族の看護p185-194で事前に該当部分を予習すること(60分)	講義内容を復習し、疑問点について自己学習をする(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第8回	事例に基づく看護過程の展開-4(菅原・横山) 小児看護過程の特徴(回復期) 川崎病:回復期 DVD視聴 看護過程演習課題提示	看護病態治療学(川崎病)、小児看護学の展開Ⅰ(川崎病)の復習を行うこと 教科書(小児看護学Ⅱ)川崎病のある子どもと家族の看護p185-194で事前に該当部分を予習すること(60分)	事例のアセスメントの情報整理、アセスメント、看護問題の抽出を行う(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第9回	事例に基づく看護過程の展開-5 1. 第8回で紹介した事例を基に、グループワークを実施し、看護計画や看護問題の焦点化を学習する	事例のアセスメントの情報整理、アセスメント、看護問題の抽出、看護問題の焦点化を行う(90分)	情報整理、アセスメント、看護問題の抽出、看護問題の修正を行う(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		

第10回	事例に基づく看護過程の展開-6 (菅原) 1. 川崎病看護過程解説 2. 看護計画の実施と評価	事例の看護過程を完成させる (90分)	講義内容を復習し、疑問点について自己学習をする。提出した看護過程課題を修正を行う (90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第11回	事例に基づく看護援助の展開-1 (菅原) 1. 演習オリエンテーション 2. 事例紹介 3. 看護計画の立案 確認テスト②	小児看護学の展開 I (プレパレーション演習)の復習を行う。教科書などで事前に該当部分を予習する (90分)	講義内容を復習し、疑問点について自己学習をする。演習に向けて小児看護技術の復習および自己練習をする (90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第12回	事例に基づく看護援助の展開-2 1. グループワーク内容のシミュレーション演習 【第12回、第13回は同日に2講続けて行う】	小児看護学の展開 I、展開 II で使用した講義資料・演習課題・教科書などで事前に該当部分を予習する (90分)	演習内容を復習し、疑問点について自己学習をする (90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		

第13回	事例に基づく看護援助の展開-3 1. グループワーク内容のシミュレーション演習 【第12回、第13回は同日に2講続けて行う】	小児看護学の展開Ⅰ、展開Ⅱ で使用した講義資料・演習課題 ・教科書などで事前に該当部分 を予習する(90分)	演習内容を復習し、疑問点につ いて自己学習をする。演習後レ ポートに取り組む(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第14回	事例に基づく看護援助の展開-4、事例に基づく看護過程 の展開-7(菅原) 1. 看護計画の実施と評価の視点	小児看護学の展開Ⅰ、展開Ⅱ で使用した講義資料・演習課題 ・教科書などで事前に該当部分 を予習する(90分)	演習内容を復習し、疑問点につ いて自己学習をする。提出した 看護過程演習後課題の修正を 行う(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第15回	講義内容に関する確認(横山) 1. 小児看護学の展開Ⅱのまとめ、解説 確認テスト③	これまでの講義・演習内容の復 習を行う(90分)	確認テストで理解不足を振り返り 、自己学習をする(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	確認テスト① 5% 確認テスト② 5% フィジカルアセスメント演習課題 10% フィジカルアセスメント演習 5% 看護過程① 5% 看護過程② 15% シミュレーション演習 5% シミュレーションレポート 10% 確認テスト③ 40% 評価対象物に不正行為が認められた場合は単位習得を認めない。また、提出期限後の課題提出は減点となり、期限1週間を過ぎた場合は得点を認めない。
その他	0	
教科書		
看護学テキストNiCE 小児看護学Ⅰ,Ⅱ改訂第4版/二宮啓子,今野美紀/ 南江堂 発達段階を考えたアセスメントにもとづく小児看護過程第2版/荃津智子編/医歯薬出版 写真でわかる小児看護技術アドバンス新訂第2版/山元恵子監修/インターメディカ		
参考文献		

発達段階からみた小児看護過程＋病態関連図第4版／浅野みどり他／医学書院
他は講義内で提示する。

履修条件・留意事項等

講義中は他学生の学びを妨げるような行為は慎むこと。
評価対象物に不正行為が認められた場合はD判定となる。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 母性看護学					
科目名		母性看護学の展開Ⅱ《2022カリ》				ナンバリング	3575
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	多賀 昌江						

授業の位置づけ

本学科のDP「看護の基盤となる問題解決能力を活用して看護過程の展開や臨床判断を行うための基本的な能力を身につけている」、「多様なケア環境に適した保健医療福祉チームのありかたと看護師の役割を理解できている」、「学習への主体性を有し、自律的な行動ができ専門職者として研鑽し続ける基本的な能力を身につけている」と関連した科目である。妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期に必要な看護実践能力を身に付けるため、「母性看護学の基礎」、「母性看護学の展開Ⅰ」を基盤とし、「母性看護学実習」に必要な能力や援助技術を修得する。

授業の概要

母性看護学の展開Ⅰの基本的知識を基に、看護技術演習を通して、周産期にある母児とその家族が安全・安楽に過ごすことが出来るためのケアに必要な技術、態度を修得する。また、産後の母児をとりまく家族のケアと特性について学習する。母性看護過程の展開の方法について事例を通して学ぶ。

到達目標

1. 妊婦と胎児の健康状態を判断し、必要な看護を述べることができる。
2. 産婦が安全・安楽に過ごすための看護を述べることができる。
3. 褥婦と新生児の健康状態を判断し、生理的特徴とその変化をふまえた看護を実践することができる。
4. 看護過程を展開し、周産期における母子の経時的な変化のアセスメントおよび看護計画の立案ができる。

授業の方法

1. 講義では、パワーポイントとハンドアウトを用いて説明する。
2. 演習では、事前学習を行った上で看護技術を実践する。
3. 演習後は理解度を確認するために事後課題を課す。
4. グループワークを行う。

ICT活用

課題の提出とフィードバックは、一部Google classroomを活用して行う。

実務経験のある教員の教育内容

科目担当教員は助産師として、産科や周産期母子医療センター、NICUなどに10年前後勤務した経験があり、臨床現場での具体的なケアと看護の実際について豊富な知識を有している。この臨床経験を活かして、母性看護技術と看護過程の演習を行う。

課題に対するフィードバックの方法

母性看護技術演習時に実施した看護技術を振り返り、課題の明確化を図る。また、看護過程課題のフィードバックとして、コメントを返す。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	コースオリエンテーション ウェルネス看護過程に基づいた看護過程 ウェルネス看護診断に基づいた看護過程の展開方法を学習する。 妊娠期・分娩期の看護過程 妊娠期・分娩期のアセスメントの方法と看護診断に必要な視点を学習する。	ウェルネスの視点にもとづく母性看護過程p.2-34を読んでおくこと。 母性看護学Ⅱ マタニティサイクル p.33-104、p.153-189を読んでおくこと。(90分)	講義で学んだ内容を復習し、疑問点や不明な点は自己学習すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江		
第2回	産褥期の看護過程① 産褥期のアセスメントの方法と看護診断に必要な視点を学習する。	ウェルネスの視点にもとづく母性看護過程p.61-81を読んでおくこと。 母性看護学Ⅱ マタニティサイクル p.261-317を読んでおくこと。(90分)	講義で学んだ内容を復習し、疑問点や不明な点は自己学習すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江		
第3回	産褥期の看護過程② 産褥期における看護診断と看護計画の立案について学習する。	ウェルネスの視点にもとづく母性看護過程p82-114を読んでおくこと。 母性看護学Ⅱ マタニティサイクル p.261-288を読んでおくこと。(90分)	講義で学んだ内容を復習し、疑問点や不明な点は自己学習すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江		

第4回	退院時の看護と子育てにかかわる看護 産後の母子の退院に向けた看護と退院時の看護、子育て支援と課題について学習する。	母性看護学Ⅱ マタニティサイクル p.289-317をよく読んでおくこと。(90分)	講義で学んだ内容を復習し、疑問点や不明な点は自己学習すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江		
第5回	新生児期の看護過程① 新生児期の子宮外生活適応に関するアセスメントの方法を学習する。	ウェルネスの視点にもとづく母性看護過程p.125-137を読んでおくこと。 母性看護学Ⅱ マタニティサイクル p.370-412を読んでおくこと。(90分)	講義で学んだ内容を復習し、疑問点や不明な点は自己学習すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江		
第6回	新生児期の看護過程② 新生児期の発達状況に関するアセスメントの方法を学習する。	ウェルネスの視点にもとづく母性看護過程p.125-137を読んでおくこと。 母性看護学Ⅱ マタニティサイクル p.413-419を読んでおくこと。(90分)	講義で学んだ内容を復習し、疑問点や不明な点は自己学習すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江		

第7回	妊娠期・分娩期の看護技術演習 妊婦の身体的側面と胎児の健康状態を査定するために必要な看護技術を学習する。産婦が安楽に過ごすために必要な看護技術を学習する。	母性・小児看護ゼンブガイド p.71-77をよく読んでおくこと。看護技術演習で実施する項目の目的、方法・手順、注意点について学習すること。事前課題を完成させておくこと。(90分)	技術演習事後課題を完成させ、提出すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江		
第8回	産後の母児の看護技術① 褥婦の健康状態を判断し、出産後の全身の回復や子宮復古および乳汁分泌促進に関する看護ケアについて学習する。	母性・小児看護ゼンブガイド p.78-89をよく読んでおくこと。(90分)	講義で学んだ内容を復習し、疑問点や不明な点は自己学習すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江		
第9回	産褥期の看護技術演習① 産褥期の身体的変化を査定するために、退行性変化の観察方法を学習する。また、育児技術について学習する。	看護技術演習で実施する項目の目的、方法・手順、注意点について学習すること。事前課題を完成させておくこと。(90分)	技術演習事後課題を完成させ、提出すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江		

第10回	産褥期の看護技術演習② 産褥期の身体的変化を査定するために、進行性変化の観察方法を学習する。また、授乳方法について学習する。	看護技術演習で実施する項目の目的、方法・手順、注意点について学習すること。事前課題を完成させておくこと。(90分)	技術演習事後課題を完成させ、提出すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江		
第11回	新生児期の看護技術演習① 新生児の身体的変化を査定するために、バイタルサインズの測定および黄疸測定の方法を学習する。	母性・小児看護ゼンブガイド p.81-83をよく読んでおくこと。看護技術演習で実施する項目の目的、方法・手順、注意点について学習すること。事前課題を完成させておくこと。(90分)	技術演習事後課題を完成させ、提出すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江		
第12回	新生児期の看護技術演習② 新生児の身体的変化を査定するために、全身観察の方法を学習する。	母性・小児看護ゼンブガイド p.81-83をよく読んでおくこと。看護技術演習で実施する項目の目的、方法・手順、注意点について学習すること。事前課題を完成させておくこと。(90分)	技術演習事後課題を完成させ、提出すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江		

第13回	産後の母児の看護技術② 母性看護学実習をシミュレーションし、行動計画の立案方法と母児に関連させた観察事項の報告方法について学習する。	事前課題を完成させておくこと。(90分)	演習で学んだ内容を復習し、疑問点や不明な点は自己学習すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江		
第14回	看護過程フィードバック 看護過程のフィードバックを行い、自己課題を明らかにする。	講義で使用した教科書や資料を見直すこと。(90分)	フィードバックをもとに返却された看護過程課題を修正すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江		
第15回	確認テスト 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の看護技術とアセスメントに関する確認テストを実施する。	妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の看護技術とアセスメントに関して復習すること。(90分)	これまでの学習内容について復習すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	看護過程課題 50% 事前課題・事後課題 20% 確認テスト 30%
その他	0	
教科書		
1)ウェルネスの視点にもとづく母性看護過程第4版 太田操編著 医歯薬出版株式会社 電子版 2)母性・小児看護ぜんぶガイド 第3版 古川亮子編 照林社 3)母性看護学Ⅱ マタニティサイクル 大平光子編 南江堂		
参考文献		

1)Nursing Skills ELSEVIER
2)母性看護 第3版(パーフェクト臨床実習ガイド) 堀内成子 照林社

履修条件・留意事項等

評価対象の課題に関して、不正行為が認められた場合はD判定になることがある。ハンドアウトはオンラインにて事前に配信する。必要時各自印刷して講義に持参すること。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 精神看護学					
科目名		精神看護学の展開Ⅱ《2022カリ》				ナンバリング	3595
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	井上 仁美						

授業の位置づけ

DPの「看護の基盤となる問題解決能力を活用して看護過程の展開や臨床判断を行うための基本的な能力を身につけている」「看護の専門知識を活用して健康の状態やその変化に応じて実践する能力を身につけている」と特に関連する科目である。また、「社会の一員としての責任を有し、専門職倫理観を基盤としたヒューマンケアの基本的な能力を身につけている」「看護の対象となる人々とコミュニケーション能力を活用して円滑な関係を構築し、対象理解を深める能力を身につけている」「多様なケア環境に適した保健医療福祉チームのありかたと看護師の役割を理解できている」「学習への主体性を有し、自律的な行動ができ専門職者として研鑽し続ける基本的な能力を身につけている」と関連した科目である。

精神看護学概論、精神看護学健康障害論、精神看護学援助論Ⅰを習得したあとの演習科目である。また精神看護学実習の基礎となる講義である。

授業の概要

学習した精神看護学関連の諸知識を統合して対象者を多角的に理解するために、事例を用いてアセスメントから看護計画立案までを学習する。また、セルフケアレベルに応じた看護実践の方法を学ぶ。プロセスレコードの作成をとおして看護場面を振り返り、自己理解・他者理解を深めながら対象者－看護師関係の基礎づくりと発展段階について学ぶ。

到達目標

1. 精神障害をもつ人のセルフケアを高めるための援助方法について説明することができる。
2. さまざまな精神障害をもつ対象者【事例】のアセスメントから看護計画までを立案することができる。
3. 看護場面の再構成をととして自己理解・他者理解の方法と対象者との信頼関係の基礎づくりおよび発展段階について説明することができる。

授業の方法

第1回から8回までは講義形式で行う。第9回からは事例を用いた看護過程の展開を指定された様式を用いてグループワークを行いながら実施し、事例ごとに発表する。

ICT活用

提出物および準備学習・事後学習の課題については指定された提出先 (Google Classroom; 以下GC) に提出し自主学習を支援する。

実務経験のある教員の教育内容

本科目は精神保健福祉の分野において看護師の実務経験がある教員が担当する。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題や確認テストについては講義時間中またはGCにフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	授業開始のガイダンス;授業の位置づけ、概要、目標、方法 精神科における主な治療と看護 精神疾患に用いられる向精神薬および抗精神薬の作用と有害反応、日常生活に薬物療法がどのような影響を及ぼしているかについて理解するとともに、その看護について学習する。 精神科における治療法の一つである電気けいれん療法、リハビリテーション療法、精神療法と看護について学ぶ。	テキスト;精神看護学②精神障害をもつ人の看護 P. 151～190をよく読んで重要な箇所はノートに記載するかマーカーを引く(90分)。	自己学習ノートを作成し提出する。 精神看護学まとめノート メヂカルフレンド社から出題し次回の講義初めに確認テストを行うため、テキストとレジュメでよく復習をする(90分)。
担当教員			
第2回	精神科病院における安全管理<セーフティマネジメント>と倫理的配慮 講義のはじめに【確認テスト①;第1回講義の内容(5点)】 精神科病院の療養環境について学び、単科精神科病院と総合病院の精神科病棟の役割と機能についての違いを学習する 精神保健福祉法のもとに行われている行動制限、隔離、身体的抑制を行う際の根拠と倫理的配慮、看護について学習する 身体合併症の予防、多飲水・水中毒、自傷他害行為、自殺など精神科病院におけるリスクと安全管理について学習する	テキスト;精神看護学②精神障害をもつ人の看護 P. 257～274をよく読んで重要な箇所はノートに記載するかマーカーを引く(90分)。	自己学習ノートを作成し提出する。 精神看護学まとめノート メヂカルフレンド社から出題し次回の講義初めに確認テストを行うため、テキストとレジュメでよく復習をする(90分)。
担当教員			
第3回	入院生活での身の回りの生活を整える援助 ～個人衛生、活動と休息のバランスの維持、金銭・私物管理～【確認テスト②;第2回講義の内容(5点)】 精神科病院に入院している患者の生活の実際を学び、清潔、活動、金銭および私物管理などについて、具体的な援助の方法について学習する 入院前の生活から入院中、退院後の生活の一連の過程をとおり、患者が自立・自律した生活を送るための支援の方法を学習する	テキスト;看護実践のための根拠がわかる精神看護技術 P.120～143、155～164をよく読んで重要な箇所はノートに記載するかマーカーを引く(90分)。	自己学習ノートを作成し提出する。 精神看護学まとめノート メヂカルフレンド社から出題し次回の講義初めに確認テストを行うため、テキストとレジュメでよく復習をする(90分)。
担当教員			

第4回	精神科における症状マネジメント～幻覚・妄想、無為・自閉、不安、拒否がある患者への対処～【確認テスト③;第3回講義の内容(5点)】 精神科でよくみられる症状へのアセスメントと対処法、看護介入について学習する。	テキスト;看護実践のための根拠がわかる精神看護技術 P.165～223をよく読んで重要な箇所はノートに記載するかマーカーを引く(90分)。	自己学習ノートを作成し提出する。 精神看護学まとめノート メヂカルフレンド社から出題し次回の講義初めに確認テストを行うため、テキストとレジュメでよく復習をする(90分)。
担当教員			
第5回	看護場面の再構成と援助関係の構築【確認テスト④;第4回講義の内容(5点)】 対象者とのかかわり方を学んだうえで、患者-看護師関係をアセスメントし、振り返るためのプロセスレコードの方法について学習し記載する。 信頼関係の基礎づくりと患者-看護師関係の発展段階について学習する。	テキスト;精神看護学②精神障害をもつ人の看護 P. 194～223をよく読んで重要な箇所はノートに記載するかマーカーを引く(90分)。	プロセスレコードを作成し、期限までにGCに提出する。自己学習ノートを作成し提出する。 次回の講義時に確認テストを行うため、テキストとレジュメでよく復習をする(90分)。
担当教員			
第6回	セルフケア理論の概要【確認テスト⑤;第5回講義の内容(5点)】 精神看護学で用いられる看護理論を学ぶ。 オレム・アンダーウッドのセルフケア理論について学習する。	テキスト;看護実践のための根拠がわかる精神看護技術 P.19～31、98～164をよく読んで重要な箇所はノートに記載するかマーカーを引く(90分)。	自己学習ノートを作成し提出する。 精神看護学まとめノート メヂカルフレンド社から出題し次回の講義初めに確認テストを行うため、テキストとレジュメでよく復習をする(90分)。
担当教員			

第7回	オレム・アンダーウッドのセルフケア理論による看護過程の実際;アセスメント、看護計画の立案【確認テスト⑥;第6回講義の内容(5点)】 統合失調症の事例をとおして、オレム・アンダーウッドのセルフケア理論による看護過程の実際を学び、アセスメントと看護計画の立案の方法を学習する。	テキスト;看護実践のための根拠がわかる精神看護技術 P.98～164をよく読んで重要な箇所はノートに記載するかマーカーを引く(90分)。	自己学習ノートを作成し提出する。
担当教員			
第8回	看護過程の展開<グループワーク①> 展開する事例の説明 看護過程を展開する事例について、各事例の生活歴等の背景や症状を説明することができる。	テキスト;精神看護学②精神障害をもつ人の看護 P.288～310をよく読んで重要な箇所はノートに記載するかマーカーを引く(90分)。	自分が展開する事例の情報を様式①から③まで整理する(90分)。
担当教員			
第9回	看護過程の展開<グループワーク②> 各自で事例展開を進める。	事例展開を進める(90分)。	事例展開を進める(90分)。
担当教員			

第10回	看護過程の展開＜グループワーク③＞ 各自で事例展開を進める。	事例展開を進める(90分)。	事例展開を進める(90分)。
担当教員			
第11回	看護過程の展開＜グループワーク④＞ 事例展開を進める。	事例展開を進める(90分)。	作成した事例展開を修正して提出する(90分)。
担当教員			
第12回	看護過程の発表を聴く① 統合失調症の事例 ＜医療保健科学部と合同での講義＞ 統合失調症の事例を担当したグループの発表を聞き、実際の事例に基づいた看護過程の展開を学習する。	統合失調症について復習する。 事例についてよく読んでおく(90分)。	発表されたグループの統合失調症の事例展開(様式①から⑤)について復習する(90分)。
担当教員			

第13回	看護過程の発表② うつ病の事例 <医療保健科学部と合同での講義> うつ病の事例を担当したグループの発表を聞き、実際の事例に基づいた看護過程の展開を学習する。	うつ病の復習をする。事例をよく読んでおく(90分)。	プレゼンテーションされた様式①から⑤について復習する(90分)。
担当教員			
第14回	看護過程の発表③ 双極性障害の事例 <医療保健科学部と合同での講義> 双極性障害の事例を担当したグループの発表を聞き、実際の事例に基づいた看護過程の展開を学習する。	双極性障害について復習する。事例をよく読んでおく(90分)。	プレゼンテーションされた様式①から⑤について復習する(90分)。
担当教員			
第15回	看護過程の発表④ アルコール依存症の事例 <医療保健科学部と合同での講義> アルコール依存症の事例を担当したグループの発表を聞き、実際の事例に基づいた看護過程の展開を学習する。	アルコール依存症の事例をよく読んでおく(90分)。	レポート課題を提示するので、作成して提出する(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	・確認テスト30% 5点×6回 ※確認テストは欠席・遅刻すると受けることができず0点となるため注意すること ・テストは精神看護学まとめノートから出題する。すべて持ち込み不可。 ・プロセスレコードの提出10% 10点×1回 ・レポート課題の提出10% 10点×1回 ※具体的な課題と提出方法は講義時間内またはGCで提示する ・事例展開の成果内容50% 50点 <評価基準は授業内で提示する> * 自己学習ノートを手書きで作成し提出した場合は、内容と量で1～3点/回加点するため、なるべく提出すること。
その他	0	
教科書		
新体系 看護学全書 精神看護学①精神看護学概論／精神保健 第5版 メヂカルフレンド社 新体系 看護学全書 精神看護学②精神障害をもつ人の看護 第5版 メヂカルフレンド社 精神看護学まとめノート メヂカルフレンド社		
参考文献		

適宜、資料を配布する。参考文献はGCに提示する。

履修条件・留意事項等

本科目は4年次の精神看護学実習履修要件です。看護過程は実習と同じ様式を用いるので、しっかりと理解して1年後の実習に活用できるように積極的に学習してください。実習前には看護過程の書き方等の説明は行わないので、準備学習・事後学習を行い、よく理解し記述ができるようにすることが必須です。
教員が実習中のため、休補講対応をすることがあるため、日程と教室を確認して間違わないように出席すること。

備考欄

講義の開始時に確認テストがある場合は、遅刻すると確認テストは受けられないことがあるので注意する。
事例による看護過程の展開についての課題が時間内に終了しない場合は、時間外に進める必要がある。
事例であっても、きちんと「人」として尊重し「さん」をつけるなど、呼び名等に配慮すること。

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 地域・在宅看護論					
科目名		在宅看護学の展開Ⅱ《2022カリ》				ナンバリング	3615
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	小橋 拓真、鹿内 あずさ						
授業の位置づけ							
本学科のDPである「社会の一員としての責任を有し、専門職倫理観を基盤としたヒューマンケアの基本的な能力を身につけている。」「看護の基盤となる問題解決能力を活用して看護過程の展開や臨床判断を行うための基本的な能力を身につけている。」「多様なケア環境に適した保健医療福祉チームのありかたと看護師の役割を理解できている。」「学習への主体性を有し、自律的な行動ができ専門職者として研鑽し続ける基本的な能力を身につけている。」「科学的思考と創造的思考を活用して看護の発展と社会へ貢献できる研究の基本的な能力を身につけている。」に関連した科目である。 「在宅看護学の基礎」「在宅看護学の展開Ⅰ」を学んだ内容を基盤に、在宅看護学の理論や科学的根拠に基づき、疾病や障がいを抱えながらも、在宅でその人らしい生活を支援するための生活援助技術や基本的な医療的ケア技術を学ぶ科目である。 在宅看護援助技術は、既習の「家族看護学」や「地域包括ケアシステム論」と関連させて療養者と家族の個別性を捉えた援助であり、「地域・在宅看護論実習」における基礎となる。							
授業の概要							
在宅という看護実践の場の特徴を踏まえ、在宅療養者と家族が必要とする日常生活行動の援助、及び、医療的ケアについて理解し、在宅療養を支える態度、対象者と家族に対する説明とプライバシーの保護、安全・安楽の確保、自立支援について学ぶ。							
到達目標							

1. 在宅療養者が必要としている生活援助について考察できる。
2. 在宅療養者が必要としている医療的ケアについて理解できたことを発言できる。
3. 在宅療養者の家族が必要としている生活援助について考察できる。
4. 在宅療養者の家族が必要としている医療的ケアについて考察できる。
5. 在宅療養者と家族に必要な在宅看護技術を異なる疾患の事例に対して実施できる。

授業の方法

PowerPointと配布印刷物・視聴覚教材(DVD)を用いた講義形式とグループでの演習を行う。講義で学んだ知識をもとにグループ演習を行う。グループ演習では、在宅看護技術、在宅の事例を用いたグループワーク、発表を行う。毎回の講義、及び演習において課題を示し、学生自身が学んだ内容について確認する。

ICT活用

なし。

実務経験のある教員の教育内容

- ・脳神経外科、及び、精神科特殊疾患病棟に計5年間の勤務経験を活かして講義を行う(小橋)。
- ・腎センターのICU病棟、整形外科・内科病棟に計5年間の勤務経験、及び、訪問看護ステーションにおける計5年間の経験を活かして講義を行う(鹿内)。

課題に対するフィードバックの方法

講義ごとに提出した振り返りシートをもとに、フィードバックし、学びを共有し、自己学習に活かせるようにする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	1. 訪問看護の基本的態度と面接技術について【講義】(鹿内) 1) 在宅看護場面におけるコミュニケーション技術 2) 在宅看護における看護者に求められる態度	○教科書の関連する内容を読む ○以下を復習する 在宅看護学概論, 在宅看護学の展開 I (90分)	○講義資料, 教科書の内容を復習する(60分)
担当教員	鹿内 あずさ		
第2回	2.呼吸に関する在宅看護技術(在宅人工呼吸療法)【講義】(小橋) 1) 呼吸を案案にするための看護とは 2) 在宅人工呼吸療法(TPPV/NPPV), 在宅酸素療法(HOT)についての手技や看護 3) 在宅における気管内吸引についての手技や看護	○教科書の関連する内容を読む (90分)	○講義資料, 教科書の内容を復習する(60分)
担当教員	小橋 拓真		
第3回	3.在宅療養者と家族に対する看護過程【講義】(小橋) 1) アセスメント/療養上の課題 / 全体像 / 看護計画 事例1「在宅における難病療養者と家族」配布 事例2「在宅における小児療養者と家族」配布	○教科書の関連する内容を読む (90分)	○講義資料, 教科書の内容を復習する(60分)
担当教員	小橋 拓真		

第4回	4.在宅における呼吸ケア(NPPV・TPPV・HOT)【演習】(小橋・鹿内) ※フィリップ・レスピロニクス 1)在宅における呼吸ケアで利用される機器の使い方と呼吸ケアの看護について	○在宅看護学の展開Ⅱの第2回講義内容を復習する. ○提示した事例を読み込む(90分)	○演習で学んだ内容と技術演習の自己評価をする. ○在宅看護学の展開Ⅰの復習をした上で,事例の看護過程に取り組む(90分)
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		
第5回	5.栄養に関する在宅看護技術【講義】(小橋) 1)食ることへの看護とは 2)在宅における経口摂取の援助方法について 3)在宅経管栄養法・在宅中心静脈栄養法における看護	○教科書の関連する内容を読む(90分)	○講義資料,教科書の内容を復習する(60分)
担当教員	小橋 拓真		
第6回	6.在宅における栄養のケア(在宅経管栄養法・在宅中心静脈栄養法)【演習】(小橋・鹿内) 1)胃ろうカテーテルの構造について,経管栄養法の手技と看護について 2)CVポートの構造や,中心静脈栄養の手技と看護について 3)経口摂取で使用する自助具について	○在宅看護学の展開Ⅱ第5回の講義内容を復習する. ○演習内容について,目的・方法・手順・留意点について学習する.(90分)	○演習で学んだ内容を整理し,技術演習の自己評価を行う(60分).
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		

第7回	<確認テスト①:第1回～第6回> 7.清潔に関する在宅看護技術【講義】(小橋) 1)清潔への援助が必要な療養者とは 2)在宅における清潔を保つための援助技術	○教科書の関連する内容を読む (90分)	○講義資料,教科書の内容を復習する(60分)
担当教員	小橋 拓真		
第8回	8.在宅における清潔のケア【演習】(小橋・鹿内) 1)在宅における清潔援助に利用する物品の工夫(ケリーパッド,シャワーボトル)について 2)清潔援助で使用する福祉用具の使い方について	○在宅看護学の展開Ⅱ第7回の講義内容を復習する. ○演習内容について,目的・方法・手順・留意点について学習する. (90分)	○演習で学んだ内容を整理し,技術演習の自己評価を行う(60分).
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		
第9回	<確認テスト①のフィードバック> 9.排泄に関する在宅看護技術【講義】(小橋) 1)排泄への援助が必要な療養者とは 2)在宅における排泄援助(導尿・留置カテーテル・人工肛門)について 3)排泄に関する福祉用具について	○教科書の関連する内容を読む (90分)	○講義資料,教科書の内容を復習する(60分) ○小テストでできなかった箇所を復習する(60分).
担当教員	小橋 拓真		

第10回	10.在宅における排泄ケア(人工肛門造設者への援助)【演習】(小橋・鹿内) 1)人工肛門のモデルを用いて、パウチ交換の方法について	○在宅看護学の展開Ⅱ第9回の講義内容を復習する。 ○演習内容について、目的・方法・手順・留意点について学習する。 (90分)	○演習で学んだ内容を整理し、技術演習の自己評価を行う(60分)。
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		
第11回	11.在宅における薬物療法【講義】(小橋) 1)薬物療法の必要な療養者とは 2)在宅における服薬管理、疼痛管理の看護について 3)インスリン自己注射をしている療養者の看護について	○教科書の関連する内容を読む (90分)	○講義資料、教科書の内容を復習する(60分)
担当教員	小橋 拓真		
第12回	12.在宅看護におけるリスクマネジメント【講義】(小橋・鹿内) ゲストスピーカー樋口 秋緒 先生 1) 病院とは異なる在宅でのリスクとは何か 2) 療養者が安全・安楽に生活するためのリスク管理の重要性 3) 療養者に必要な医療者としてのリスク管理の実践 [課題レポート①:受講した内容を振り返り、在宅看護のリスクマネジメントについてレポート提出]	○これまでの在宅看護学の展開Ⅱの講義や演習内容を復習し、事例の看護過程に取り組む。 (90分)	○講義資料、教科書の内容を復習する(60分)
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		

第13回	<確認テスト②:第7回～第12回> 13.在宅療養者と家族に対する看護過程【演習】(小橋・鹿内) 1)事例について、各自で進めた看護過程を持ち寄り、グループディスカッションを行う。	○これまでの在宅看護学の展開Ⅱの講義や演習内容を復習し、事例の看護過程に取り組む。(90分)	○グループ内でディスカッションした看護過程を修正し、提出する。(90分)
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		
第14回	<確認テスト②のフィードバック> 14.在宅療養者と家族に対する看護過程【演習】(小橋・鹿内) 1)事例について、グループディスカッションで、共有した内容を発表する。 【2事例 提出】※原則、提出期限延長は認めない 受講後、事例1「在宅における難病療養者と家族」提出 受講後、事例2「在宅における小児療養者と家族」提出	○在宅看護学の展開Ⅰを復習する。 ○教科書の関連する内容を読む(90分)	○グループ内でディスカッションした看護過程を修正し、提出する。(90分) ○小テストでできなかった箇所を復習する(60分)。
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		
第15回	<課題(事例1・事例2)の提出> 15.在宅における人生の最終段階における看護と意思決定支援【講義】(鹿内) 1)在宅看護における意思決定支援・人生の最終段階における支援 2)アドバンス ケア プランニング(ACP)とは 3)在宅看護における課題 / まとめ [課題レポート②:受講した内容を振り返り、在宅療養者と家族を支えるためにどのような看護が大切かについてレポート提出]	○在宅看護学の展開Ⅰの復習 ○教科書の関連する内容を読む(60分) ○在宅看護学の展開Ⅱの講義・演習内容を復習する。(120分)	在宅看護学の展開Ⅰの講義資料や教科書の内容を復習する(90分)
担当教員	鹿内 あずさ		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	○確認テスト2回:50%(各25%) ○看護過程2事例:30%(各15%) ○課題レポート2回:10%(各5%) ○出席を含む講義・演習への参加態度および、コメントシートの記載:10%
その他	0	なし。
教科書		
①在宅看護学講座, スーディ神崎和代(監修), ナカニシヤ出版 ②写真でわかる訪問看護アドバンス訪問看護の世界を写真と動画で学ぶ!, 押川真喜子, インターメディカ ③医療福祉総合ガイドブック 2022年度版/NPO法人 日本医療ソーシャルワーク研究会, 医学書院		
参考文献		

適宜, 示す.

履修条件・留意事項等

評価物において, 不正行為が認められた場合, D判定になることがある.

備考欄

なし.

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 看護の統合と実践					
科目名		看護研究Ⅰ《2022カリ》				ナンバリング	4701
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	佐藤 洋子						

授業の位置づけ

本科目は、ディプロマポリシー「学習への主体性を有し、自律的な行動ができる専門職者として研鑽し続ける基本的能力を身につけている」「科学的思考と創造的思考を活用して看護の発展と社会へ貢献できる研究の基本的な能力を身に着けている」を目指し、看護学における基本的な研究プロセスに関する知識を習得する科目である。この知識に基づき「看護研究Ⅱ」で発展的な学習につなげる。

授業の概要

看護学と医療・保健の質向上に貢献できる研究能力を養うため、看護活動を効果的に展開するためには、研究的視点を持ち看護の実践知を論理的・体系的にとらえ、看護実践の改善に役立てていくが必要になる。本科目では、看護における研究の意義を理解した上で、実際に看護研究のプロセスを理解する。また、看護研究に必要な研究方法、研究デザイン、研究倫理について学び、研究計画書を作成する基礎的知識を習得する。

到達目標

1. 看護学における研究の役割を理解することができる。
2. 研究のプロセスが理解できる。
3. 看護研究における今後の課題を考えることができる。
4. 批判的に文献検討を行う視点を身につけることができる。

授業の方法

本科目は、講義形式と学生同士のディスカッションを活用して学習する。教材は、教科書と担当教員が作成した資料である。理解度を確認するための小テスト並びに課題レポートの提出によって総合的に評価する。理解を深めるため小テストを実施する。また、適宜レポートおよび課題を提示する。

ICT活用

Google Classroomを活用して、レポート提出や準備学習・事後学習を行い自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

本講義は研究指導、看護研究の経験がある教員が授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

小テスト・課題レポートを実施した後、解説講評を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	1.コースオリエンテーション 2.看護研究Ⅰの位置づけとシラバスの説明	教科書などで、事前に該当部分 を予習する(90分間程度)。 シラバスを読んでおく。	講義内容をまとめ、疑問点は自 己学習をすること(90分程度)。
担当教員			
第2回	1.看護における研究の役割 2.研究の目的と意義、研究プロセス	教科書などで、事前に該当部分 を予習する(90分間程度)。 テキスト:第1章 pp.2-21	講義内容をまとめ、疑問点は自 己学習をすること(90分程度)。
担当教員			
第3回	1.研究対象者の権利と倫理審査体制 2.研究における倫理的配慮 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 等	教科書などで、事前に該当部分 を予習する(90分間程度)。 テキスト:第1章 pp.19-30,他	講義内容をまとめ、疑問点は自 己学習をすること(90分程度)。
担当教員			

第4回	1.研究過程の概要 2.研究デザイン(量的研究、質的研究、他)	教科書などで、事前に該当部分を予習する(90分間程度)。 テキスト:第2章 pp.31-41, 第10章 pp.221-240,他	講義内容をまとめ、疑問点は自己学習をすること(90分程度)。
担当教員			
第5回	1.文献検討の方法 文献検討の目的、方法、文献の分類、研究論文の形式、国内外のデータベース等	教科書などで、事前に該当部分を予習する(90分間程度)。 テキスト:第3章 pp.43-63,他	講義内容をまとめ、疑問点は自己学習をすること(90分程度)。
担当教員			
第6回	文献検索の方法 データベース「医学中央雑誌」を中心とした検索方法、他(図書館司書)	教科書などで、事前に該当部分を予習する(90分間程度)。 テキスト:第3章 pp.43-63,他 本学図書館のホームページ https://libro.dobunkyo.ac.jp/	講義内容をまとめ、疑問点は自己学習をすること(90分程度)。
担当教員			

第7回	1.課題1 文献検索レポート:文献検索および文献レビュー	教科書などで, 事前に該当部分を予習する(90分間程度)。	講義内容をまとめ、疑問点は自己学習をすること(90分程度)。
担当教員			
第8回	1.研究デザインとクリティーク	教科書などで, 事前に該当部分を予習する(90分間程度)。 テキスト:第4章 pp.43-63,他、第5章 pp.81-117,他	講義内容をまとめ、疑問点は自己学習をすること(90分程度)
担当教員			
第9回	1.研究計画書の作成方法	教科書などで, 事前に該当部分を予習する(90分間程度)。 テキスト:第6章 pp.120-134,他	講義内容をまとめ、疑問点は自己学習をすること(90分程度)。
担当教員			

第10回	1.データ収集と分析	教科書などで、事前に該当部分を予習する(90分間程度)。 テキスト: 第7章 pp.135-170,他、第8章 pp.171-1202,他、第10章 pp.221-240,他	講義内容をまとめ、疑問点は自己学習をすること(90分程度)。
担当教員			
第11回	1.研究成果の公表・活用について 2.プレゼンテーション、論文の作成の方法	教科書などで、事前に該当部分を予習する(90分間程度)。 テキスト: 第9章 pp.207-220,他	講義内容をまとめ、疑問点は自己学習をすること(90分程度)。
担当教員			
第12回	1.研究結果の活用 1: 文献クリティーク チェックシートに基づいて文献をクリティークする	教科書などで、事前に該当部分を予習する(90分間程度)。	講義内容をまとめ、疑問点は自己学習をすること(90分程度)。
担当教員			

第13回	1.研究結果の活用 2:文献クリティーク チェックシートに基づいて文献をクリティークする	教科書などで、事前に該当部分 を予習する(90分間程度)。	講義内容をまとめ、疑問点は自 己学習をすること(90分程度)。
担当教員			
第14回	1.課題2:研究計画書作成 ※確認テスト	教科書などで、事前に該当部分 を予習する(90分間程度)。	講義内容をまとめ、疑問点は自 己学習をすること(90分程度)
担当教員			
第15回	1.看護研究の今後の課題、まとめ	教科書などで、事前に該当部分 を予習する(90分間程度)。 テキスト:第12章 pp.265-276,他	講義内容をまとめ、疑問点は自 己学習をすること(90分程度)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	講義内での確認試験1回(60点) 課題1レポート:20点 課題2レポート:20点
その他	0	
教科書		
南 裕子・野嶋佐由美編/看護における研究第2版/日本看護協会出版会/2021年.		
参考文献		

講義内で提示する。

履修条件・留意事項等

講義中は能動的な学修姿勢で臨むこと。
他学生の学びを妨げる行為は慎むこと。
講義中の私語は厳禁です。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 看護の統合と実践					
科目名		看護研究Ⅱ				ナンバリング	4702
配当年次	4年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	2
担当教員	坂東 奈穂美、小堀 ゆかり、井上 仁美、尾形 裕子、木口 幸子、多賀 昌江、鹿内 あずさ、辻 幸美、藤長 すが子、小橋 拓真、菅原 美保、竹之内 優美、藤村 恵理子、渡辺 一代、桧本 常子、古沢 幸子、佐藤 洋子、赤坂 浩子、初見 温子、横山 佳世、水野 愛子、高橋 洋介						
授業の位置づけ							
本学科のディプロマポリシー「科学的思考と創造的思考を活用して看護の発展と社会へ貢献できる研究の基本的な能力」を身につけるための科目である。「看護研究Ⅰ」と関連し、それまで履修した専門科目の総まとめとなる。							

1. 自分が持った関心や疑問(研究動機)から研究課題(研究テーマ)を明らかにすることができる。
2. 研究課題に関する文献検索と文献のクリティークを行い、その結果を文献カードにまとめることができる。
3. 共同で研究課題にふさわしい研究デザインを設計することができる。
4. 共同で所定の様式に従った研究計画書を作成することができる。
5. 共同で最終成果を発表することができる。
6. 計画書作成の過程に、自主的、建設的、協力的な態度で参加することができる。

授業の方法

少人数のグループに分かれて、ゼミ形式で進める。担当教員より、研究の背景・研究動機・研究目的・文献検討・研究方法・倫理的配慮について指導を受けながら、自分たちが関心を持っている研究課題について、グループで研究計画書を作成する。研究計画をより洗練させるため、計画書の作成途中で中間報告会を開催し、他の学生や教員からの意見をもらう。最後に研究計画書報告会で発表し、抄録集にまとめ、看護研究についての学びを深める。

ICT活用

研究倫理については、eラーニングを用いて学ぶ。

実務経験のある教員の教育内容

担当教員は看護職の勤務経験を活かし、看護研究について指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

研究計画書の作成過程で、口頭もしくは研究計画書へのコメントによりフィードバックを行う。中間報告会や研究計画書発表会では、質疑応答の時間にフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	【科目ガイダンス】 グループワーク 各自が関心を寄せている研究疑問を持ち寄り、グループ内で発表し、グループとして取り組む研究課題と、今後の方向性について討議する。 看護研究Ⅱの進め方について担当教員と相談する。	課題整理(30分)	持ち帰った課題の検討(30分)
担当教員			
第2回	グループワーク ゼミの担当教員の指示に従う	課題整理(30分)	持ち帰った課題の検討(30分)
担当教員			
第3回	グループワーク ゼミの担当教員の指示に従う	課題整理(30分)	持ち帰った課題の検討(30分)
担当教員			

第4回	グループワーク ゼミの担当教員の指示に従う	課題整理(30分)	持ち帰った課題の検討(30分)
担当教員			
第5回	グループワーク ゼミの担当教員の指示に従う	課題整理(30分)	持ち帰った課題の検討(30分)
担当教員			
第6回	グループワーク ゼミの担当教員の指示に従う	課題整理(30分)	持ち帰った課題の検討(30分)
担当教員			

第7回	グループワーク ゼミの担当教員の指示に従う	課題整理(30分)	持ち帰った課題の検討(30分)
担当教員			
第8回	グループワーク ゼミの担当教員の指示に従う	課題整理(30分)	持ち帰った課題の検討(30分)
担当教員			
第9回	グループワーク ゼミの担当教員の指示に従う	課題整理(30分)	持ち帰った課題の検討(30分)
担当教員			

第10回	グループワーク ゼミの担当教員の指示に従う	課題整理(30分)	持ち帰った課題の検討(30分)
担当教員			
第11回	グループワーク ゼミの担当教員の指示に従う	課題整理(30分)	持ち帰った課題の検討(30分)
担当教員			
第12回	グループワーク ゼミの担当教員の指示に従う	課題整理(30分)	持ち帰った課題の検討(30分)
担当教員			

第13回	グループワーク ゼミの担当教員の指示に従う	課題整理(30分)	持ち帰った課題の検討(30分)
担当教員			
第14回	グループワーク ゼミの担当教員の指示に従う	課題整理(30分)	持ち帰った課題の検討(30分)
担当教員			
第15回	グループワーク ゼミの担当教員の指示に従う	課題整理(30分)	持ち帰った課題の検討(30分)
担当教員			

第16回	中間報告会 原則として2領域以上で合同で行う。運営は学生主体で行う。	課題整理(30分)	中間報告会で指摘された修正点や質問への対応、残された課題の検討(30分)
担当教員			
第17回	グループワーク ゼミの担当教員の指示により、研究計画書を修正する。	課題整理(30分)	中間報告会で指摘された修正点や質問への対応、残された課題の検討(30分)
担当教員			
第18回	グループワーク ゼミの担当教員の指示により、研究計画書を修正する。	課題整理(30分)	中間報告会で指摘された修正点や質問への対応、残された課題の検討(30分)
担当教員			

第19回	グループワーク ゼミの担当教員の指示により、研究計画書を修正する。	課題整理(30分)	中間報告会で指摘された修正点や質問への対応、残された課題の検討(30分)
担当教員			
第20回	グループワーク ゼミの担当教員の指示により、研究計画書を修正する。	課題整理(30分)	中間報告会で指摘された修正点や質問への対応、残された課題の検討(30分)
担当教員			
第21回	グループワーク ゼミの担当教員の指示により、研究計画書を修正する。	課題整理(30分)	中間報告会で指摘された修正点や質問への対応、残された課題の検討(30分)
担当教員			

第22回	グループワーク ゼミの担当教員の指示により、研究計画書を修正する。	課題整理(30分)	中間報告会で指摘された修正点や質問への対応、残された課題の検討(30分)
担当教員			
第23回	グループワーク ゼミの担当教員の指示により、研究計画書を修正する。	課題整理(30分)	中間報告会で指摘された修正点や質問への対応、残された課題の検討(30分)
担当教員			
第24回	グループワーク ゼミの担当教員の指示により、研究計画書を修正する。	課題整理(30分)	中間報告会で指摘された修正点や質問への対応、残された課題の検討(30分)
担当教員			

第25回	グループワーク ゼミの担当教員の指示により、研究計画書を修正する。	課題整理(30分)	中間報告会で指摘された修正点や質問への対応、残された課題の検討(30分)
担当教員			
第26回	グループワーク ゼミの担当教員の指示により、研究計画書を修正する。	課題整理(30分)	中間報告会で指摘された修正点や質問への対応、残された課題の検討(30分)
担当教員			
第27回	グループワーク ゼミの担当教員の指示により、研究計画書を修正する。	課題整理(30分)	中間報告会で指摘された修正点や質問への対応、残された課題の検討(30分)
担当教員			

第28回	グループワーク ゼミの担当教員の指示により、研究計画書を修正する。	課題整理(30分)	中間報告会で指摘された修正点や質問への対応、残された課題の検討(30分)
担当教員			
第29回	研究計画書発表会 座長・タイムキーパー・マイク係りなどを学生が担い、運営する。	課題整理(30分)	発表会で指摘された修正点や質問への対応、残された課題の検討(30分)
担当教員			
第30回	グループワーク 研究計画書・抄録集を完成させる。	課題整理(30分)	振り返り(30分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	評価表に従い、研究計画書、抄録、発表会資料、グループワーク参加態度について、総合的に評価する。
その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		

授業の期間内に必要時、提示する。

履修条件・留意事項等

主体的に、かつ計画的に取り組むこと。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 看護の統合と実践					
科目名		看護研究Ⅱ				ナンバリング	4702
配当年次	4年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	2
担当教員	坂東 奈穂美、小堀 ゆかり、井上 仁美、尾形 裕子、木口 幸子、多賀 昌江、鹿内 あずさ、辻 幸美、藤長 すが子、小橋 拓真、菅原 美保、竹之内 優美、藤村 恵理子、渡辺 一代、桧本 常子、古沢 幸子、佐藤 洋子、赤坂 浩子、初見 温子、横山 佳世、水野 愛子、高橋 洋介						
授業の位置づけ							
本学科のディプロマポリシー「科学的思考と創造的思考を活用して看護の発展と社会へ貢献できる研究の基本的な能力」を身につけるための科目である。「看護研究Ⅰ」と関連し、それまで履修した専門科目の総まとめとなる。							

1. 自分が持った関心や疑問(研究動機)から研究課題(研究テーマ)を明らかにすることができる。
2. 研究課題に関する文献検索と文献のクリティークを行い、その結果を文献カードにまとめることができる。
3. 共同で研究課題にふさわしい研究デザインを設計することができる。
4. 共同で所定の様式に従った研究計画書を作成することができる。
5. 共同で最終成果を発表することができる。
6. 計画書作成の過程に、自主的、建設的、協力的な態度で参加することができる。

授業の方法

少人数のグループに分かれて、ゼミ形式で進める。担当教員より、研究の背景・研究動機・研究目的・文献検討・研究方法・倫理的配慮について指導を受けながら、自分たちが関心を持っている研究課題について、グループで研究計画書を作成する。研究計画をより洗練させるため、計画書の作成途中で中間報告会を開催し、他の学生や教員からの意見をもらう。最後に研究計画書報告会で発表し、抄録集にまとめ、看護研究についての学びを深める。

ICT活用

研究倫理については、eラーニングを用いて学ぶ。

実務経験のある教員の教育内容

担当教員は看護職の勤務経験を活かし、看護研究について指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

研究計画書の作成過程で、口頭もしくは研究計画書へのコメントによりフィードバックを行う。中間報告会や研究計画書発表会では、質疑応答の時間にフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	【科目ガイダンス】 グループワーク 各自が関心を寄せている研究疑問を持ち寄り、グループ内で発表し、グループとして取り組む研究課題と、今後の方向性について討議する。 看護研究Ⅱの進め方について担当教員と相談する。	課題整理(30分)	持ち帰った課題の検討(30分)
担当教員			
第2回	グループワーク ゼミの担当教員の指示に従う	課題整理(30分)	持ち帰った課題の検討(30分)
担当教員			
第3回	グループワーク ゼミの担当教員の指示に従う	課題整理(30分)	持ち帰った課題の検討(30分)
担当教員			

第4回	グループワーク ゼミの担当教員の指示に従う	課題整理(30分)	持ち帰った課題の検討(30分)
担当教員			
第5回	グループワーク ゼミの担当教員の指示に従う	課題整理(30分)	持ち帰った課題の検討(30分)
担当教員			
第6回	グループワーク ゼミの担当教員の指示に従う	課題整理(30分)	持ち帰った課題の検討(30分)
担当教員			

第7回	グループワーク ゼミの担当教員の指示に従う	課題整理(30分)	持ち帰った課題の検討(30分)
担当教員			
第8回	グループワーク ゼミの担当教員の指示に従う	課題整理(30分)	持ち帰った課題の検討(30分)
担当教員			
第9回	グループワーク ゼミの担当教員の指示に従う	課題整理(30分)	持ち帰った課題の検討(30分)
担当教員			

第10回	グループワーク ゼミの担当教員の指示に従う	課題整理(30分)	持ち帰った課題の検討(30分)
担当教員			
第11回	グループワーク ゼミの担当教員の指示に従う	課題整理(30分)	持ち帰った課題の検討(30分)
担当教員			
第12回	グループワーク ゼミの担当教員の指示に従う	課題整理(30分)	持ち帰った課題の検討(30分)
担当教員			

第13回	グループワーク ゼミの担当教員の指示に従う	課題整理(30分)	持ち帰った課題の検討(30分)
担当教員			
第14回	グループワーク ゼミの担当教員の指示に従う	課題整理(30分)	持ち帰った課題の検討(30分)
担当教員			
第15回	グループワーク ゼミの担当教員の指示に従う	課題整理(30分)	持ち帰った課題の検討(30分)
担当教員			

第16回	中間報告会 原則として2領域以上で合同で行う。運営は学生主体で行う。	課題整理(30分)	中間報告会で指摘された修正点や質問への対応、残された課題の検討(30分)
担当教員			
第17回	グループワーク ゼミの担当教員の指示により、研究計画書を修正する。	課題整理(30分)	中間報告会で指摘された修正点や質問への対応、残された課題の検討(30分)
担当教員			
第18回	グループワーク ゼミの担当教員の指示により、研究計画書を修正する。	課題整理(30分)	中間報告会で指摘された修正点や質問への対応、残された課題の検討(30分)
担当教員			

第19回	グループワーク ゼミの担当教員の指示により、研究計画書を修正する。	課題整理(30分)	中間報告会で指摘された修正点や質問への対応、残された課題の検討(30分)
担当教員			
第20回	グループワーク ゼミの担当教員の指示により、研究計画書を修正する。	課題整理(30分)	中間報告会で指摘された修正点や質問への対応、残された課題の検討(30分)
担当教員			
第21回	グループワーク ゼミの担当教員の指示により、研究計画書を修正する。	課題整理(30分)	中間報告会で指摘された修正点や質問への対応、残された課題の検討(30分)
担当教員			

第22回	グループワーク ゼミの担当教員の指示により、研究計画書を修正する。	課題整理(30分)	中間報告会で指摘された修正点や質問への対応、残された課題の検討(30分)
担当教員			
第23回	グループワーク ゼミの担当教員の指示により、研究計画書を修正する。	課題整理(30分)	中間報告会で指摘された修正点や質問への対応、残された課題の検討(30分)
担当教員			
第24回	グループワーク ゼミの担当教員の指示により、研究計画書を修正する。	課題整理(30分)	中間報告会で指摘された修正点や質問への対応、残された課題の検討(30分)
担当教員			

第25回	グループワーク ゼミの担当教員の指示により、研究計画書を修正する。	課題整理(30分)	中間報告会で指摘された修正点や質問への対応、残された課題の検討(30分)
担当教員			
第26回	グループワーク ゼミの担当教員の指示により、研究計画書を修正する。	課題整理(30分)	中間報告会で指摘された修正点や質問への対応、残された課題の検討(30分)
担当教員			
第27回	グループワーク ゼミの担当教員の指示により、研究計画書を修正する。	課題整理(30分)	中間報告会で指摘された修正点や質問への対応、残された課題の検討(30分)
担当教員			

第28回	グループワーク ゼミの担当教員の指示により、研究計画書を修正する。	課題整理(30分)	中間報告会で指摘された修正点や質問への対応、残された課題の検討(30分)
担当教員			
第29回	研究計画書発表会 座長・タイムキーパー・マイク係りなどを学生が担い、運営する。	課題整理(30分)	発表会で指摘された修正点や質問への対応、残された課題の検討(30分)
担当教員			
第30回	グループワーク 研究計画書・抄録集を完成させる。	課題整理(30分)	振り返り(30分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	評価表に従い、研究計画書、抄録、発表会資料、グループワーク参加態度について、総合的に評価する。
その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		

授業の期間内に必要時、提示する。

履修条件・留意事項等

主体的に、かつ計画的に取り組むこと。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 看護の統合と実践					
科目名		看護臨床判断《2022カリ》				ナンバリング	4666
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	佐藤 洋子、木口 幸子、鹿内 あずさ						
授業の位置づけ							
本科目は看護学の理論や科学的根拠に基づき、ディプロマポリシー「看護の基盤となる問題解決能力を活用して看護過程の展開や臨床判断を行うための基本的な能力を身につけている」「看護の専門知識を活用して健康の状態やその変化に応じて実践する能力を身につけている」「社会の一員としての責任を有し、専門職倫理観を基盤としたヒューマンケアの基本的な能力を身につけている」「科学的思考と創造的思考を活用して看護の発展と社会へ貢献できる研究の基本的な能力を身につけている」に関係する。また、本科目は看護専門職の人材の育成に関係し、「看護起業論」「リスクマネジメント論」「看護マネジメント論」「国際看護学」「災害看護学」を含む、対象者の健康的な生活を支援するための基礎的知識を獲得するための統合科目として位置づけられる。							
</							

- 1.看護臨床判断の必要性と関連する基本的な概念を理解する。
- 2.看護臨床判断モデルが理解できる。
- 3.看護実践における臨床判断の思考プロセスを習得する。
- 4.臨床判断の4つのフェーズが理解できる。
- 5.臨床判断のフェーズに基づき、事例を活用して実施ができる。

授業の方法

授業方法はパワーポイントとハンドアウト、視聴覚教材(DVD)などを用いたオムニバス講義形式とする。理解を深めるため、適宜レポートおよび課題を提示する。グループワークを実施し互いの考えを共有する。

ICT活用

Google Classroomを活用して、情報共有、レポート提出や準備学習・事後学習を行い自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

本講義は豊富な実務経験を有する看護師有資格教員が授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

小テスト、グループワーク報告後、テスト並びに課題の講評・解説を適宜行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	1.コースオリエンテーション 2.臨床判断・臨床推論の定義	・シラバスを読んでおく。(20分)	・講義演習日程を再確認し、関連する科目について復習する。(25分)
担当教員	佐藤 洋子		
第2回	1.看護を取り巻く現状と臨床判断能力	・臨床判断の定義について看護過程と関係からまとめておく。(20分)	・看護を取り巻く現状と、臨床判断の重要性についてまとめておく。(25分)
担当教員	佐藤 洋子		
第3回	1.タナーの理論と臨床判断モデル	・タナーの理論について、検索し一読しておく。(20分)	・講義資料や関連するテキストを読み、自分の考えをまとめる。(25分)
担当教員	佐藤 洋子		

第4回	1.臨床看護実践で遭遇する臨床判断の展開 2.アセスメントと臨床診断のための思考プロセス	・臨床判断モデルについて確認しておく。(20分)	・講義資料や関連する文献を読み、自分の考えをまとめる。(25分)
担当教員	佐藤 洋子		
第5回	・まとめ 課題:臨床看護場面で遭遇する臨床判断の展開について	・前回までの講義内容を振り返る。(20分)	・講義資料や関連する文献を読み、自分の考えをまとめる(25分)
担当教員	佐藤 洋子		
第6回	1. 臨床判断の概念 2. 臨床判断モデルの4つのフェーズ	・第1回から5回の講義資料を復習する(60分)	・講義資料を復習する(90分)
担当教員	鹿内 あずさ		

第7回	1.臨床判断モデルの活用 2.臨床判断を促進する方法	・臨床判断モデルについて復習する(60分)	・講義資料を復習する(90分)
担当教員	鹿内 あずさ		
第8回	1.臨床判断を促進するモデルの活用(1) 講義(20分) 事例を通してグループでの検討(40分)発表(20分) フィードバック(10分) 課題(個人)の提示	・講義資料を復習する(60分)	・グループで話し合った内容と自身の学びについてまとめる。 ・次回講義時提出の課題に取り組む(90分)
担当教員	鹿内 あずさ		
第9回	1.臨床判断を促進するモデルの活用(2) 講義(20分)事例を通してグループでの検討(40分)発表(20分) フィードバック(10分) 課題(個人)の提示	・講義資料を復習する(60分)	・グループで話し合った内容と自身の学びについてまとめる。 ・次回講義時提出の課題に取り組む(90分)
担当教員	鹿内 あずさ		

第10回	1.臨床判断を促進するモデルの活用(3) 講義(20分)事例を通してグループでの検討(40分)発表(20分) フィードバック(10分) レポート課題の提示	・講義資料を復習する(60分)	・グループで話し合った内容と自身の学びについてまとめる(90分)。 ・課題レポートを作成し、指示された日時までに提出する。
担当教員	鹿内 あずさ		
第11回	臨床判断の4つのフェーズについて再確認(講義) ・前回までの復習 ・臨床判断の4つのフェーズについて再確認 ・今後の進め方	・前回までの講義について復習する(60分)	・4つのフェーズについて復習する(60分)
担当教員	木口 幸子		
第12回	(講義・演習) 【気づく】 ・気づくとは(講義20分) ・事例の背景と直前情報を読み、【気づく】について、グループで話し合う。(40分) ・発表(20分)・講評(10分)	・【気づく】について復習・予習をしてくる(60分)	・【気づく】について、演習を通して、個人課題①を提出(90分) ・グループレポート提出
担当教員	木口 幸子		

第13回	(講義・演習) 【解釈】 ・解釈とは(講義20分) ・12回目の＜気づき＞から、【解釈】について、グループで話し合う。(40分) ・発表(20分)・講評(10分)	・【解釈】について復習・予習をしてくる(60分)	・【解釈】について、演習を通し、個人課題①を提出(90分) ・グループレポート提出
担当教員	木口 幸子		
第14回	(講義・演習) 【反応・省察】 ・反応・省察とは(講義20分) ・12回目＜気づく＞、13回目＜解釈＞を踏まえて、【反応】 【省察】について、グループで話し合う。(40分) ・発表(20分)・講評(10分)	・【反応】【省察】について復習・予習をしてくる(90分)	・【反応】【省察】について、演習を通し、個人課題①を提出(90分) ・グループレポート提出
担当教員	木口 幸子		
第15回	・まとめ ・レポート説明	・これまでの復習をする。	・レポート作成(90分)
担当教員	木口 幸子		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各担当教員が実施する授業中の小テスト、個人並びにグループ課題レポート提出の合計により評価する。各担当教員より講義時に、テストやレポートの評価割合(%)を明示する
その他	0	
教科書		
既得の教科書を参照し、特に指定しない。 必要時資料を提示する。		
参考文献		

別途講義中に紹介する。

履修条件・留意事項等

講義中は能動的な学修姿勢で臨むこと。
他学生の学びを妨げる行為は慎むこと。
講義中の私語は厳禁。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 看護の統合と実践					
科目名		看護起業論《2022カリ》				ナンバリング	4668
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	高岡 哲子						
授業の位置づけ							
本科目は、「看護の統合と実践(総合講座)」に位置づけられ、ディプロマポリシーの「学習への主体性を有し、自立的な行動ができ専門職者として研鑽し続ける基本的な能力を身につけている【関心・意欲・態度】」につながる。「キャリア教育」に位置づけられている「キャリア入門」などを基盤として学習する。これらの学習により、卒業後の進路の幅を広げられるように看護職者が起業する際に必要な知識と考え方を学ぶ。							

- ・看護師が病院以外で活躍する方法を知り、起業の選択肢を持つことができる。
- ・自分のスキルの価値を知り、実際に収益につなげる方法を考えることができる。
- ・事業の立ち上げ方や継続の仕方を学び、今後のキャリア設計に応用することができる。

授業の方法

本科目は、講義・事例紹介・グループワーク・ディスカッションを組み合わせ、実践的かつ参加型の学習を重視する。看護師の多様なキャリアや起業の可能性を学びながら、ワークを通じて自分のスキルを活かせる方法を考える。特に「自分ごと」として捉えられるよう、未来のキャリア設計に役立つ内容を提供する。最終回では5年後の自分を考えてディスカッションすることで、主体的なキャリア形成のきっかけをつくる。

ICT活用

この科目では、ICTを活用して学習をサポートする。資料はGoogle Classroomに掲載し、学生が必要なときに閲覧できるようにする。ワークシートの提出はGoogleフォームを利用し、簡単に提出できるようにする。

実務経験のある教員の教育内容

総合病院で約7年間勤務し、臨床経験を積んだ実務家教員として、看護の現場で培った知識と実践力を活かし、看護師の多様なキャリアや起業の可能性について実践的に伝える。

課題に対するフィードバックの方法

本授業では提出された課題に対し、共通フィードバックを中心に実施し、全体の理解を深める。具体的には、授業内で優れた回答やよくある誤解を共有し、解説を行うことで全体の学習効果を高める。また、個別のフィードバックは、単位取得が危うい場合や、課題の理解が大きくずれている場合に実施する。該当する学生には、具体的な改善点を提示し、学習の方向性を修正できるよう支援する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	オリエンテーション(講義・GW) 内容:起業の概念を身近に感じられるように、看護師の多様な働き方を紹介し、実際の起業事例を学ぶ。ディスカッションやワークを通じて、病院以外で活躍する可能性を考え、自身のスキルを活かす視点を養う。 行動目標: ・病院以外の看護師の働き方を知ることができる。 ・自分の看護スキルを活かせる可能性に気づくことができる。	・シラバスを熟読する。 ・「起業」と聞いて思い浮かぶものを3つ挙げる。 ・看護師が病院以外で働く方法を知っているか考える。 ・身の回りで「看護の知識があれば解決できそうな困りごと」を1つ探す。(90分)	・行動目標の自己評価を行う。「もし自分が何か起業するとしたら？」のアイデアを簡単にまとめる(100字程度)。(90分)
担当教員			
第2回	お金になる看護のアイデアを探せ！(講義・GW) 内容:ビジネスは「人の困りごとを解決すること」と理解し、看護スキルを活かした副業や起業の事例を紹介する。身の回りで「お金を払ってでも解決したい困りごと」を考え、看護でできるビジネスアイデアを見つけるワークを行う。 行動目標 ・「お金になる看護のアイデア」が身近にあることを知る。 ・困りごとを解決する視点で、ビジネスの可能性を考えられるようになる。 ワークシート	・「最近困ったこと」「お金を払ってでも誰かに助けてもらいたいこと」を3つ考える。 ・看護の知識があれば解決できそうな問題がないか身の回りを観察する。(90分)	・「自分の看護スキルを活かしてできそうな仕事」を1つ考え、簡単にまとめる(100字程度)。 ・看護師として働く中で「困りごとを解決する視点」をどのように活かせるか考える。(90分)
担当教員			
第3回	あなたの看護スキル、1時間いくら？(講義・GW) 内容:看護師の時給を病院勤務とフリーランスで比較し、スキルの価値を考える。実際に看護スキルを活かして副業・起業した事例を紹介し、「自分ならどんなサービスを提供できるか？」をワークで考える。 行動目標: ・看護師のスキルが価値を持ち、ビジネスにつながることを知る。 ・自分のスキルを活かしてできる仕事の可能性を考えられるようになる。 ワークシート	・看護師の時給(バイト・正社員など)を調べ、自分が知っている範囲で比較してみる。 ・「自分が持っているスキルや経験」で、お金をもらえる可能性があるものを3つ考える。(90分)	・自分のスキルを使って「誰に」「どんなサービスを」「いくらで」提供できそうかを簡単にまとめる(100字程度)。 ・「看護スキルの価値」を意識して、病院で働くときにどのように活かせるか考える。(90分)
担当教員			

第4回	看護師ができる副業(講義・GW) 内容:看護師が病院勤務を続けながらできる副業の種類を学ぶ。SNSやYouTube、オンライン相談、訪問サービス、健康講座などの事例を紹介し、「自分にもできそうな副業アイデア」を考えるワークを行う。 行動目標: ・看護師ができる副業の種類を知る。 ・自分のスキルを活かした副業の可能性を考える。 ワークシート	・看護師の副業について調べてみる(YouTube、オンライン相談、訪問サービスなど)。 ・自分のスキルや興味で「仕事になりそうなこと」を3つ考える。(90分)	・自分ができそうな副業アイデアを100字程度でまとめる。 ・病院勤務を続けながら、副業をするメリット・デメリットを考える。(90分)
担当教員			
第5回	みんなに知ってもらうには? マーケティング入門(講義・GW) 内容:「良いサービス」だけでは成功しないことを理解し、SNSや口コミを活用したマーケティングの基本を学ぶ。看護師インフルエンサーの事例を紹介し、「看護×○○でバズるアイデア」を考えるワークを行う。 行動目標: ・マーケティングの重要性と基本的な手法を理解する。 ・看護の視点を活かした発信アイデアを考える。	・最近SNSで話題になった健康・医療系の投稿を1つ探し、なぜバズったのか考える。 ・自分がよく見るSNS・YouTubeの健康系コンテンツを思い出す。(90分)	・「自分が発信するとしたら?」を100字程度で考え、どのSNSを活用するか決める。 ・病院勤務でも活かせるマーケティングの考え方を整理する。(90分)
担当教員			
第6回	実際に売ってみる! ミニビジネス体験(講義) 内容:「売る=価値を伝えてお金をもらう」ことを学び、500円で売れる看護系サービスを考える。チームで模擬販売を行い、実際にお客さんに提供する体験を通して「売れるとは何か?」を実感する。 行動目標: ・「売ること」から、看護スキルの価値を実感する。 ・自分のアイデアを具体的に形にする力を養う。 ワークシート	・「最近買ったもの」を思い出し、なぜ買ったのかを考える。 ・看護師のスキルを活かしたサービスで、お金を払ってもいいと思うものを3つ考える。(90分)	・自分のスキルで500円の価値を提供できるとしたら何ができるか、100字でまとめる。 ・看護師として働く上で「価値を伝える力」をどう活かせるか考える。(90分)
担当教員			

第7回	看護師として働きながら、どうキャリアを広げる？（講義・GW） 内容：病院勤務だけがキャリアの選択肢ではないことを学び、専門性の向上、副業、フリーランスなど多様な働き方を知る。起業の考え方を活かしてキャリアを広げる方法を考え、5年後の理想の働き方をイメージするワークを行う。 行動目標： ・看護師のキャリアには多様な選択肢があると知る。 ・起業の考え方を活かして、自分の将来を柔軟に設計できるようになる。 ワークシート	「病院勤務以外で看護師が活躍できる場」について調べてみる。 5年後の自分がどんな働き方をしていたいか、簡単に考えてみる。（90分）	・今日の授業で「新しく知ったキャリアの選択肢」を1つ書く。 ・5年後の理想の働き方を100字程度でまとめる。 ・そのために今からできる準備や学ぶべきことを考える。（90分）
担当教員			
第8回	看護師としての未来の自分を描く（講義・GW） 内容：5年後の自分の理想の働き方を考え、未来のキャリアについてプレゼンを行う。クラスメートと意見を共有し、キャリアの多様な可能性を学ぶ。柔軟な視点を持ち、自分の未来を主体的に描く力を養う。 行動目標： ・自分のキャリアプランを具体的に考え、言葉にできるようになる。 ディスカッションを通じて、看護師の多様な働き方を知る。 確認レポート	・5年後の自分がどんな働き方をしたいか考えておく。 ・理想のキャリアのために必要なスキルや経験をリストアップする。（90分）	・5年後の目標達成のために「今からできること」を100字でまとめる。 ・キャリアの選択肢を増やすために興味のある分野をさらに調べる。（90分）
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合（％）	内容	
定期試験	0	なし	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	確認レポート:5回×20点=100点
その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		
必要時提示する。		
履修条件・留意事項等		

- ・私語、教員が求めた時以外の携帯電話の使用を禁止する。
- ・学習は主体的に行う。
- ・欠席した場合は、必ず欠席届を提出する。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 看護の統合と実践					
科目名		看護マネジメント論				ナンバリング	4660
配当年次	4年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	坂東 奈穂美、水野 愛子						

授業の位置づけ

看護学科のディプロマ・ポリシー「看護の専門知識を活用して健康の状態やその変化に応じて実践する能力」を身につけ、「多様なケア環境に適した保健医療福祉チームのありかた看護師の役割を理解できている」に関連した科目である。
 ②他の科目との前後のつながり:「地域看護学概論」「保健医療福祉行政論」「チーム医療概論」などの科目と関連し、「看護実践マネジメント実習」の基礎となる。

授業の概要

看護の質を保障するための組織のあり方やシステム、人材育成の視点から看護マネジメントを学ぶ。具体的には、対象が必要とする医療サービスを受けるための組織構造、他職種と看護職との連携について、事例を通して理解する。質を担保し安全な看護ケアを継続して提供するために、組織およびチームのメンバーとして求められる基本的な能力を理解したうえで、看護業務スケジュールや自己目標の立案について体験的に学ぶ。さらに、専門職業人としての責任を理解し、働き続けるためのセルフマネジメントについて考察する。

到達目標

- 1.医療施設の組織構造と看護部門の位置づけについて説明できる。
- 2.病院理念や行動指針と、看護部理念や看護単位の目標との関連を説明できる。
- 3.看護ケアの質の保障するため、環境・物品・財務・人材・情報のマネジメントについて説明できる。
- 4.継続して安全に看護ケアを提供するため、看護チームとしての協働や日常業務のマネジメントについて説明できる。
- 5.看護師が働き続けることを目指したセルフマネジメントを説明できる。
- 6.医療制度と看護職に関連した法律について説明できる。

授業の方法

パワーポイントとハンドアウトを用いた講義と実践的な演習により進める。

ICT活用

出席確認や課題提出に、Google Classroomを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

看護師として急性期病院での勤務経験を活かし授業を行う(坂東)。
看護師・看護管理職として高度急性期病院での勤務経験を活かし授業を行う(水野)。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、提出された課題に対し、授業内で解説する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	授業ガイダンス 【マネジメントとは何か】 看護管理学とは何か、看護ケアのマネジメントと看護サービスのマネジメントの違い、看護のマネジメントが行われる場、看護におけるマネジメントの考え方について説明する	教科書第1章(P2-15)を読み、内容を理解する(90分)	授業内容を自分のノートにまとめる(90分)
担当教員	坂東 奈穂美		
第2回	【マネジメントに必要な知識と技術】 マネジメントに必要な基本的な知識として、マネジメントプロセスの考え方、経営資源(人、サービス、カネ、情報)PDCAサイクルについて説明する。組織を調整するために必要な技術として、リーダーシップやメンバーシップについて説明する。	教科書の第5章(P138-162)を読み、内容を理解する(90分)	授業内容を自分のノートにまとめる(90分)
担当教員	坂東 奈穂美		
第3回	【看護サービスを提供するためのシステム】 組織理念・行動目標、組織形態の種類と特徴、組織図に基づく分業、目標管理について説明する。看護部門における看護単位の考え方や看護提供体制についても説明する。 小テスト①	教科書第4章(P80-98)を読み、内容を理解する(90分)	小テストで間違った問題に関する事項を復習する(90分)
担当教員	坂東 奈穂美		

第4回	【看護サービスのマネジメント②】 医療施設の環境のマネジメントとして、施設の設備、患者の療養環境、看護師の作業環境について説明する。	教科書第4章(P112-119)を読み、内容を理解する(90分)	授業内容を自分のノートにまとめる(90分)
担当教員	坂東 奈穂美		
第5回	【看護サービスのマネジメント③-1】 物品(モノ)のマネジメントとして、院内の物流システム、医薬品や医療機器の管理、医療廃棄物の管理について説明する。財的資源(カネ)のマネジメントとして、医療保険制度や診療報酬の仕組み、医療機関の収益や費用、経営の指標について概説する。 小テスト②	教科書第4章(P96-109)第6章(P187-190)を読み、内容を理解する(90分)	小テストで間違った問題に関する事項を復習する(90分)
担当教員	坂東 奈穂美		
第6回	【看護サービスのマネジメント③-2】 病院内で取り扱われる情報のマネジメント、および組織のリスクマネジメントとして災害時のマネジメントについて説明する。また、医療におけるサービスの質の評価について説明する。	教科書第4章(P128-140)を読み、内容を理解する(90分)	授業内容を自分のノートにまとめる(90分)
担当教員	坂東 奈穂美		

第7回	【看護サービスのマネジメント④】 院内教育制度(集団研修とOJT)、クリニカルラダーなどのキャリアデベロップメント、病院における人材フロー、看護職員の労務管理、業務量のマネジメントについて説明する。 小テスト③	教科書第4章(P98-112)を読み、内容を理解する(90分)	小テストで間違った問題に関する事項を復習する(90分)
担当教員	水野 愛子		
第8回	【看護職としてのセルフマネジメント①】 ゲストスピーカー:看護職に対するキャリア支援の実際 レポート課題①:自分のキャリアを考える	教科書第3章(P66-72)を読み、内容を理解する(90分)	レポート課題①を期限までに提出する(90分)
担当教員	坂東 奈穂美		
第9回	【看護ケアのマネジメント①-1】 看護ケアのマネジメントプロセス、院内感染対策について概説する。また、看護の継続(勤務体制、病棟内での連携、外来と病棟の連携)、地域との連携として医療に関連する職種と連携し、他施設や介護サービスとの連携に向けた退院調整について説明する。	教科書第2章(P18-24,P38-41,P49-51)を読み、内容を理解する(90分)	授業内容を自分のノートにまとめる(90分)
担当教員	坂東 奈穂美		

第10回	【看護ケアのマネジメント①-2】 ワーク:看護計画の理解 患者の基本情報、診療記録や看護計画から、その患者の病態をアセスメントし、計画されているケアの根拠を明確にすることを、事例を通して学ぶ。 ワーク課題①	看護計画を立案するプロセスについて復習する(90分)	ワーク課題①を期限までに提出する(90分)
担当教員	水野 愛子		
第11回	【看護ケアのマネジメント②-1】 複数の対象を担当する場合に必要とされる、日常業務のマネジメントについて説明する。優先順位の判断、タイムマネジメントについて学ぶ。	教科書第3章(P71-76)を読み、内容を理解する(90分)	授業内容を自分のノートにまとめる(90分)
担当教員	坂東 奈穂美		
第12回	【看護ケアのマネジメント②-2】 ワーク:日常業務の組み立て 複数の患者を担当した場合の行動計画を立案し体験的に学習する。その日の病状の把握・患者のスケジュール・患者の要望から、優先順位を判断し、行動計画を立案する体験から業務の組み立て方を学ぶ。 ワーク課題②	これまでの実習で自分が行ってきた行動計画の立案方法について復習しておく(90分)	ワーク課題②を期限までに提出する(90分)
担当教員	水野 愛子		

第13回	【看護ケアのマネジメント③-1】 看護を提供する仕事の特徴としての感情労働や、ストレスに対するセルフマネジメントについて説明する。患者満足度と職員満足度、看護職の多様な働き方、ワークライフバランスについて説明する。	教科書第6章(P166-193)を読み、内容を理解する(90分)	授業内容を自分のノートにまとめる(90分)
担当教員	坂東 奈穂美		
第14回	【看護ケアのマネジメント③-2】 ワーク:多重課題に直面した時、どのように対応するのか考える ワーク課題③	日常の場面で生じた多重課題に対し、自分がどのように対処しているのかについて振り返りしておく(90分)	ワーク課題③を期限までに提出する(90分)
担当教員	坂東 奈穂美		
第15回	【看護マネジメントの実際】 ゲストスピーカー:病院を取り巻く社会状況と看護部長の仕事 レポート課題②	医療を取り巻く社会状況について調べてくる(90分)	レポート課題を期限までに提出する(90分)
担当教員	水野 愛子		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内の小テスト:30%(各10%×3回) レポート課題:40%(各20%×2回) ワーク課題::30%(各10%×3回)
その他	0	
教科書		
系統看護学講座 統合分野 看護管理 看護の統合と実践① / 上泉和子他 / 医学書院./2023		
参考文献		

ナースিং・グラフィカ 看護の統合と実践① 看護管理 / 吉田千文他 / メディカ出版/2023

履修条件・留意事項等

実習前の集中講座で2講連続で週2回となるため、休講・補講の連絡に注意し、授業スケジュールを確認すること。
看護実践マネジメント実習に関連するワークを行うため、欠席しないように体調を整えること。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 看護の統合と実践					
科目名		リスクマネジメント論《2022カリ》				ナンバリング	4661
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	坂東 奈穂美、水野 愛子						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「看護の基礎となる問題解決能力を活用して看護過程の展開や臨床判断を行うための基本的な能力を身につけている」に関連した科目である。 各領域の「臨地看護学実習」や「看護倫理」「チーム医療概論」「看護マネジメント論」に関連する科目である。							

1. 安全な医療環境の形成に向けて、医療事故に伴う看護職の法的責任について説明できる
2. 医療や看護を实践するうえで起こるリスク、およびその予防方法について説明できる。
3. 医療者自身におこるリスクについて説明できる。
4. 医療事故の予防に向けて、組織における医療安全対策について説明できる

授業の方法

PowerPointを用いた講義と個人ワークによる演習を実施する。

ICT活用

Google Classroomにより出席の確認、課題の提出を行う。

実務経験のある教員の教育内容

看護師としての勤務経験を活かして授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

小テストの解説や学生からの質問に対し、Web上もしくは授業内で解説する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	【なぜ医療事故が起こるのか】 ヒューマンエラーと医療安全の基本、個人としての医療安全の取り組みについて説明する。 コメントシート①	教科書P.1～P.17, P.46～P.59 を読んでくる(90分)	日常生活の中で、自分に起きているヒューマンエラーをまとめる(90分)
担当教員	坂東 奈穂美		
第2回	【事例から学ぶ①】 臨地で起こりやすい薬剤に関連した事例から、予防策を説明する。	教科書P.120～P.146を読んでくる(90分)	授業内容をノートにまとめる(90分)
担当教員	坂東 奈穂美		
第3回	【事例から学ぶ②】 点滴静注、輸血、輸液ポンプ・シリンジポンプなど医療機器、浣腸、酸素投与など、医療処置に関連した事例から、予防策を説明する。	教科書P.147～P.172を読んでくる(90分)	授業内容をノートにまとめる(90分)
担当教員	坂東 奈穂美		

第4回	確認テスト① 【事例から学ぶ③】 点滴ルート、気管内挿管チューブ・気管切開カニューレ、人工呼吸器など、ドレーンやチューブ類に関連する事例から、予防策について説明する	第2回と第3回の授業内容を復習する。教科書P.173～P.196を讀んでくる(90分)	確認テストで間違ったところを復習する。授業内容をノートにまとめる(90分)
担当教員	坂東 奈穂美		
第5回	【事例から学ぶ④】 検査、療養上の世話、誤認に関連する事例から、予防法について説明する。	教科書P.197～P.225を讀んでくる(90分)。	授業内容をノートにまとめる(90分)
担当教員	坂東 奈穂美		
第6回	確認テスト② 【医療・看護における安全対策①】 個人の医療安全への取り組みについて説明し、危険予知トレーニング(KYT)から体験的に学ぶ	第4回と第5回の授業内容を復習する。教科書P.46～P.59を讀んでくる(90分)。	確認テストで間違ったところを復習する。KYTに関する課題に取り組み期限までに提出する(90分)。
担当教員	水野 愛子		

第7回	【医療・看護における安全対策②】 チームのリスクマネジメントとして、医療事故報告の活かし方について説明し、インシデントレポートの書き方について体験的に学ぶ	教科書P.17～P.43を読んでもくる(90分)。	インシデントレポートに関する課題に取り組み期限までに提出する(90分)。
担当教員	坂東 奈穂美		
第8回	【医療・看護における安全対策③】 組織として安全な医療を提供するための体制や組織づくりについて説明する。	教科書P.60～P.67, P.101～P.118を読んでもくる(90分)。	医療安全に関するレポート課題を期限までに提出する(90分)。
担当教員	坂東 奈穂美		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	コメントシート10% 確認テスト40%(20%×2回) レポート課題50%(KYTワーク課題15%, インシデントレポート課題15%, 医療安全に関するレポート20%)
その他	0	
教科書		
看護テキストNice 医療安全 多職種でつくる患者安全をめざして(改訂第2版) 山内 豊明, 荒井 有美(編)		
参考文献		
必要時、授業内で提示する。		
履修条件・留意事項等		

週2回の集中講義であり、毎回課題があるため、欠席しないように体調管理を行ってください。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 看護の統合と実践					
科目名		国際看護学				ナンバリング	4662
配当年度	4年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	梶本 常子						

授業の位置づけ

成人看護学概論、成人看護学援助論の知識をもとに、異文化における健康、保健、福祉について学習する科目である。ディプロマ・ポリシー「社会の一員としての責任を有し、専門職倫理観を基盤としたヒューマンケアの基本的な能力を身につけている。(思考・判断・表現)」と特に関係がある科目である。また、「看護の対象となる人々とコミュニケーション能力を活用して円滑な関係を構築し、対象理解を深める能力を身につけている。(知識・技能)」こととも関係する。

授業の概要

自然災害や戦争などで栄養失調や感染症に苦しむ地域がある一方で、慢性的な平和の中で肥満や生活習慣病が問題になっている国もある等、地球上の地域格差は拡大している。また、経済社会のグローバル化により、国際間の交流は、人・物ともに日常化し、国を超えて流行する感染症や環境汚染の広がりを防ぎ、健康の地域格差を解消するために国際的な連携や協力が益々重要になっている。そこで、本科目では、グローバルな視点を養うため、JICAやWHOなどの国際機関、NGO、個人がこれら諸問題にどう関わっているかを具体的事例に触れながら理解し、異文化における健康及び保健の価値観を身につける。

到達目標

1. グローバルヘルスにおける重要な概念について説明できる。
2. 国際社会における保健・医療・福祉の現状と課題について説明できる。
3. 国際保健医療分野における国際協力機関と仕組みについて説明できる。
4. 異文化理解の重要性を理解し、国際保健について説明できる。
5. 多様な文化的背景を持つ人々の、生活の支援に必要な看護の役割について述べることができる。

授業の方法

パワーポイントと配信する講義資料、視聴覚メディア(DVD)を用いて講義形式ですすめる。
ミニレポート、理解度確認テストを行う。
コメントシートを用いて講義内容についての振り返りを行い、その内容をクラスで共有する。

ICT活用

GoogleClassroomを用いて双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

国境なき医師団における海外派遣活動での経験を活かし、実践をふまえた内容を説明する。

課題に対するフィードバックの方法

コメントシートの内容をクラスで共有しフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	コースガイダンス 国際保健医療における主な概念について学び、国際社会における保健・医療・福祉の現状と課題について理解する。	本またはインターネットを通じて国際保健医療について調べる(90分)	講義資料をもとに復習する(90分)
担当教員	証本 常子		
第2回	国際保健医療分野における国際協力機関と仕組みとして、国際機関とその役割、具体的な活動について理解する。世界保健機関(WHO)	本またはインターネットを通じてWHOについて調べる(90分)	講義資料をもとに復習する(90分)
担当教員	証本 常子		
第3回	国際保健医療分野における国際協力機関と仕組みとして、国際機関とその役割、具体的な活動について理解する。国連児童基金(UNICEF), 国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR)	本またはインターネットを通じてUNICEF, UNHCRについて調べる(90分)	講義資料をもとに復習する(90分)
担当教員	証本 常子		

第4回	理解度確認テスト1 国際保健医療分野における国際協力機関と仕組みとして、政府機関とその役割について理解する。 国際協力機構(JICA), 政府開発援助(ODA)	本またはインターネットを通じて JICA, ODAについて調べる(90分)	講義資料をもとに復習する(90分)
担当教員	証本 常子		
第5回	国際協力機構(JICA), 政府開発援助(ODA)における具体的な活動について理解する。 海外における看護活動に関するゲストスピーカーの講話	本またはインターネットを通じて JICA, ODAの具体的な活動事例について調べる(90分)	講義資料をもとに復習する(90分)
担当教員	証本 常子		
第6回	国際保健医療分野における国際協力機関と仕組みとして、非政府組織(NGO)とその役割、具体的な活動について理解する。国境なき医師団、世界の医療団	本またはインターネットを通じて NGO、国境なき医師団、世界の医療団について調べる(90分)	講義資料をもとに復習する(90分)
担当教員	証本 常子		

第7回	国際保健医療分野における国際協力機関と仕組みとして、国際赤十字・赤新月運動とその役割、具体的な活動について理解する。	本またはインターネットを通じて国際赤十字・赤新月運動について調べる(90分)	講義資料をもとに復習する(90分)
担当教員	証本 常子		
第8回	理解度確認テスト2 多様な文化的背景を持つ人々への支援と健康課題、看護師の役割と責任について理解する。 インターネットを通じて多様な文化的背景について調べ、看護師の役割について考える(90分) 理解度確認テスト3	本またはインターネットを通じて多様な文化的背景について調べ、看護師の役割について考える(90分)	講義資料をもとに復習する(90分)
担当教員	証本 常子		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート、理解度確認テスト、リフレクションシートへの取り組みにより評価する。
その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		
国際看護学入門 第2版(2018)／日本国際看護学会編／医学書院 看護の統合と実践④ 国際化と看護(2025)／大橋一友他／メディカ出版		
履修条件・留意事項等		

ミニレポートの提出遅延や未提出は減点となる。
評価対象物への不正行為は、D判定となる場合がある。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 看護の統合と実践					
科目名		災害看護学				ナンバリング	4664
配当年次	4年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	水野 愛子						
授業の位置づけ							
本科目は、看護の統合と実践(総合講座)の科目である。災害に対する必要な知識、及び医療者の対応の基本を修得する。「看護病態治療学Ⅰ」、「看護病態治療学Ⅱ」、「看護病態治療学Ⅲ」、「看護病態治療学Ⅳ」、「成人看護学の展開」、「老年看護学の展開」、「小児看護学の展開」、「母性看護学の展開」の実地での応用となる。看護学科のディプロマポリシー「看護の専門知識を活用して健康の状態やその変化に応じて実践する能力を身につけている」、「多様なケア環境に適した保健医療福祉チームのありかたと看護師の役割を理解できている」と関連した科目である。							
授業の概要							
災害看護を理解するために必要な知識を学び、災害時に必須の技術を学ぶと共に、災害発生時に展開される看護の実際を学ぶ。							
到達目標							

- 1) 災害看護の概要について述べることができる。
- 2) 災害時の安全管理、指揮命令系統の考え方や実際について述べることができる。
- 3) 災害サイクルと各期の特徴及び、各期で求められる医療看護支援について述べることができる。
- 4) 被災者の被災者の生活と場に応じた医療・看護支援について述べることができる。
- 5) 授業で学習した知識を統合し、被災者に必要な医療・看護支援について論じることができる。
- 6) グループワークにて他者と協調し、災害サイクルに応じた被災者に必要な医療・看護支援について討議することができる。

授業の方法

PowerPoint等のスライド、資料を用いた講義とワークによる演習を実施する。

ICT活用

課題提出等にGoogle Classroomを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

科目担当は看護師・看護管理者として高度急性期病院での勤務経験がある。
ゲストスピーカーはEzo看に属し、災害看護について経験豊富である。

課題に対するフィードバックの方法

課題についてのフィードバックは、授業中に全体へ行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	災害の定義 災害医療の歴史 災害医療、災害医療の対象、災害看護 災害サイクルと各期に求められる対応	・テキスト該当箇所を読む。 ・国内外で起きている災害について何があるか挙げる。 ・災害における看護とは何か考える。 (90分)	・講義資料、テキストを再度読む。 ・授業内容をノートにまとめる。 ・ワーク課題に取り組む。 (90分)
担当教員	水野 愛子		
第2回	災害時の指揮命令系の考え方及び実際 災害時の安全管理 ゲストスピーカー 田中かおり	・テキスト該当する箇所を読む。 (90分)	・講義資料、テキストを再度読む。 ・授業内容をノートにまとめる。 ・ワーク課題に取り組む。 (90分)
担当教員	水野 愛子		
第3回	災害時の指揮命令系の考え方及び実際 災害時の安全管理 ゲストスピーカー 田中かおり	・テキスト該当箇所を読む。 (90分)	・講義資料、テキストを再度読む。 ・授業内容をノートにまとめる。 ・ワーク課題に取り組む。 (90分)
担当教員	水野 愛子		

第4回	災害サイクルの時期による医療・看護支援 被災者の生活と場に応じた医療・看護支援 ゲストスピーカー 太田尚伸	・テキスト該当箇所を読む。 (90分)	・講義資料、テキストを再度読む。 ・授業内容をノートにまとめる。 ・ワーク課題に取り組む。 (90分)
担当教員	水野 愛子		
第5回	災害サイクルの時期による医療・看護支援 被災者の生活と場に応じた医療・看護支援 ゲストスピーカー 太田尚伸	・テキスト該当箇所を読む。 (90分)	・講義資料、テキストを再度読む。 ・授業内容をノートにまとめる。 ・ワーク課題に取り組む。 (90分)
担当教員	水野 愛子		
第6回	災害時の指揮命令系の考え方及び実際 災害時の安全管理 災害時の看護についてグループワーク ゲストスピーカー 田中かおり	・テキスト該当箇所を読む。 (90分)	・講義資料、テキストを再度読む。 ・授業内容をノートにまとめる。 ・ワーク課題に取り組む。 (90分)
担当教員	水野 愛子		

第7回	災害時の指揮命令系の考え方及び実際 災害時の安全管理 災害時の看護についてグループワーク ゲストスピーカー 田中かおり	・テキスト該当箇所を読む。 (90分)	・講義資料、テキストを再度読む。 ・授業内容をノートにまとめる。 ・ワーク課題に取り組む。 (90分)
担当教員	水野 愛子		
第8回	まとめの試験 まとめの試験の解説、ワーク課題のフィードバック	・まとめのノートを使って、第1回から第7回までの授業内容の振り返りを行う。 (90分)	・授業内容の振り返り、必要か所の再学習を行う。 ・レポート課題を期限までに提出する。 (90分)
担当教員	水野 愛子		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業後ワーク課題10%×4回(第1回後、第2-3回後、第4-5回後、第6-7回後)=40%、レポート課題30%×1回=30%、まとめの試験30%×1回=30%
その他	0	
教科書		
太田晴美、立垣祐子編(2025). Basic&Practice 一災害看護学 改訂第2版, 学研.		
参考文献		
酒井明子、増田園恵(2023). 看護学テキストNice 災害看護 改訂第4版, 南江堂.		
履修条件・留意事項等		

評価対象物において代筆や盗用等の不正行為があった場合にはD判定となる場合があります。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 臨地実習					
科目名		成人看護学実習《2022カリ》				ナンバリング	4810
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	実習	単位	4
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介						
授業の位置づけ							
本科目は成人期にある対象者に必要な看護の実際を知るとともに既習の知識・技術・態度の統合を図り看護実践能力を養うことをねらう。成人看護学実習では、成人期以降にあり健康障害を生じ入院治療を必要とする対象者の看護過程を展開し実践的に学ぶ。専門基礎科目のすべてと連携し、「看護実践マネジメント実習」「看護研究Ⅱ」に繋がる。DP「看護の対象となる人々とコミュニケーション能力を活用して円滑な関係を構築し対象理解を深める能力を身につけている(知識・技能)」「看護の基盤となる問題解決能力を活用して看護過程の展開や臨床判断を行うための基本的な能力を身につけている。(思考・判断・表現)」「看護の専門知識を活用して健康の状態やその変化に応じて実践する能力を身につけている。(知識・技能)」ことと特に関係がある科目である。							
授業の概要							
成人看護学実習では、成人期以降にあり、健康障害を生じ入院治療を必要とする対象者の看護過程を実践的に展開する。急性の健康障害、周術期、慢性的な経過をたどる健康障害を持つ対象へ、症状緩和並びに健康危機状況から回復して健康を維持・増進できるようなセルフマネジメントの支援に向けた援助を習得する。							
到達目標							

1. 対象を統合的に理解し、症状緩和並びに健康危機状況から回復し健康を維持・増進するための看護計画を立案できる
2. 対象が症状緩和並びに健康危機状態から回復して健康を維持・増進するためのセルフマネジメント支援に向けた看護ケアを実施・評価できる
3. 実践した看護を振り返り、根拠に基づき説明することができる
4. チームアプローチにおける看護師及び多職種役割を理解し、対象を中心とした連携と協働のあり方を説明できる
5. 学生としての役割・責務を果たすことができる

授業の方法

実習開始前にオリエンテーションを受けて、事前の自己学習として実習に必要な知識と技術を整理する
実習施設内の学習は、患者を受け持ち臨床指導者と実習担当教員からの助言・指導のもとで看護過程を展開する
受け持った患者への看護の理解を深めるために、実習記録やレポートの作成とカンファレンスを行う

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

看護実践経験のある教員が実習指導を行う

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題に対しては、面談による指導もしくはコメントを返す

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	詳細については成人看護学実習要項を参照	オリエンテーション時に提示する	オリエンテーション時に提示する
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第2回	なし	なし	なし
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第3回	なし	なし	なし
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		

第4回	なし	なし	なし
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第5回	なし	なし	なし
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第6回	なし	なし	なし
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		

第7回	なし	なし	なし
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第8回	なし	なし	なし
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第9回	なし	なし	なし
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		

第10回	なし	なし	なし
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第11回	なし	なし	なし
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第12回	なし	なし	なし
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		

第13回	なし	なし	なし
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第14回	なし	なし	なし
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第15回	なし	なし	なし
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	実習要項の評価表を参照のこと
その他	0	なし
教科書		
看護病態治療学、基礎看護学、成人看護学の基礎・成人看護学の展開で使用した教科書を活用する		
参考文献		

ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 第6版 スーヴェルヒロカワ
 NANDA-I 看護診断定義と分類2024-2026 原書第13版 医学書院
 疾病別看護過程 第4版 医学書院
 根拠がわかる疾患別看護過程 改訂第4版 南江堂
 疾患別看護過程の展開 第6版 学研

履修条件・留意事項等

実習の履修要件をシラバスで確認すること
 実習前オリエンテーションを含め、無断欠席は減点とする
 評価対象物において不正行為が認められた場合は、D判定になることがある

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 臨地実習					
科目名		老年看護学実習				ナンバリング	4814
配当年次	4年	開講学期	2025年度前期	区分	実習	単位	2
担当教員	辻 幸美、高岡 哲子、初見 温子						

授業の位置づけ

本科目は特にDP「対象に必要な看護ケアについて科学的根拠に基づく説明ができ、看護ケアを的確に実施することができる」「状況を的確に判断し、その状況に応じたコミュニケーションがとれる」「医療の進歩、健康増進に関する情報への関心を常に維持し、実践を通して自らの成長を促すことができる」「自己学習・自己評価をし続ける行動や態度をとることができる」に関連した老年看護学領域に位置づけられている。老年看護学領域に関連した全ての学習の集大成として、今まで得た知識を統合し、老年者を対象とした看護を実践的に学ぶ。

授業の概要

本実習では、老年者を対象とした看護過程を実践し、自らの援助や既存の理論、科学的根拠について検証する。学習内容は、老年者1事例を受け持ち、看護過程の展開をすること、そして、自らが行った看護について考察することである。本実習は、老年看護学の学習を統合する機会である。よって、既習学習との関連を意識し、看護を論理的に検証することを目指して学習する。

到達目標

1. 老年者の尊厳を守る意味を考察できる。
2. 老年者を取り巻く生活環境(家族を含む)を考察できる。
3. 認知症高齢者の生活からその人らしい生活支援を考察できる。
4. 看護の複雑な場面や関係性の中で経験した看護実践をふりかえり、自らの看護観や人間観を精選する。
5. 自らの看護的思考をわかりやすく他者に伝える。

授業の方法

詳細については老年看護学実習要項を参照

ICT活用

Google classroomの使用

実務経験のある教員の教育内容

高岡は総合的な病院で、辻は脳神経外科系病院で、初見は循環器病棟、訪問看護ステーションでの勤務経験を活用して実習指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出された記録は全て確認して返却する。また、必要時、個人指導を行なう。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	詳細については老年看護学実習実習要項を参照	なし	なし
担当教員	高岡 哲子、辻 幸美、初見 温子		
第2回	なし	なし	なし
担当教員	高岡 哲子、辻 幸美、初見 温子		
第3回	なし	なし	なし
担当教員	高岡 哲子、辻 幸美、初見 温子		

第4回	なし	なし	なし
担当教員	高岡 哲子、辻 幸美、初見 温子		
第5回	なし	なし	なし
担当教員	高岡 哲子、辻 幸美、初見 温子		
第6回	なし	なし	なし
担当教員	高岡 哲子、辻 幸美、初見 温子		

第7回	なし	なし	なし
担当教員	高岡 哲子、辻 幸美、初見 温子		
第8回	なし	なし	なし
担当教員	高岡 哲子、辻 幸美、初見 温子		
第9回	なし	なし	なし
担当教員	高岡 哲子、辻 幸美、初見 温子		

第10回	なし	なし	なし
担当教員	高岡 哲子、辻 幸美、初見 温子		
第11回	なし	なし	なし
担当教員	高岡 哲子、辻 幸美、初見 温子		
第12回	なし	なし	なし
担当教員	高岡 哲子、辻 幸美、初見 温子		

第13回	なし	なし	なし
担当教員	高岡 哲子、辻 幸美、初見 温子		
第14回	なし	なし	なし
担当教員	高岡 哲子、辻 幸美、初見 温子		
第15回	なし	なし	なし
担当教員	高岡 哲子、辻 幸美、初見 温子		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	0	なし
その他	100	詳細については老年看護学実習実習要項を参照
教科書		
①北川公子ほか/系統看護学講座老年看護学/医学書院 ②上田敏ほか/ICFの理解と活用 /きょうされん ③山田律子ほか/生活機能から見た老年看護過程＋病態・生活機能関連図/医学書院		
参考文献		

必要時提示する。

履修条件・留意事項等

オリエンテーションで提示する。
提出物の類似、代筆、虚偽の報告などは全て不正とみなす。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 臨地実習					
科目名		老年看護学実習《2021カリ》				ナンバリング	4814
配当年次	4年	開講学期	2025年度前期	区分	実習	単位	4
担当教員	辻 幸美、高岡 哲子、初見 温子						

授業の位置づけ

本科目は特にDP「対象に必要な看護ケアについて科学的根拠に基づく説明ができ、看護ケアを的確に実施することができる」「状況を的確に判断し、その状況に応じたコミュニケーションがとれる」「医療の進歩、健康増進に関する情報への関心を常に維持し、実践を通して自らの成長を促すことができる」「自己学習・自己評価をし続ける行動や態度をとることができる」に関連した老年看護学領域に位置づけられている。老年看護学領域に関連した全ての学習の集大成として、今まで得た知識を統合し、老年者を対象とした看護を実践的に学ぶ。

授業の概要

本実習では、老年者を対象とした看護過程を実践し、自らの援助や既存の理論、科学的根拠について検証する。学習内容は、老年者1事例を受け持ち、看護過程の展開をすること、そして、自らが行った看護について考察することである。本実習は、老年看護学の学習を統合する機会である。よって、既習学習との関連を意識し、看護を論理的に検証することを目指して学習する。

到達目標

1. 老年者の尊厳を守る意味を考察できる。
2. 老年者を取り巻く生活環境(家族を含む)を考察できる。
3. 認知症高齢者の生活からその人らしい生活支援を考察できる。
4. 看護の複雑な場面や関係性の中で経験した看護実践をふりかえり、自らの看護観や人間観を精選する。
5. 自らの看護的思考をわかりやすく他者に伝える。

授業の方法

詳細については老年看護学実習要項を参照

ICT活用

Google classroomの使用

実務経験のある教員の教育内容

高岡は総合的な病院で、辻は脳神経外科系病院で、初見は循環器病棟、訪問看護ステーションでの勤務経験を活用して実習指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出された記録は全て確認して返却する。また、必要時、個人指導を行なう。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	詳細については老年看護学実習実習要項を参照	なし	なし
担当教員	高岡 哲子、辻 幸美、初見 温子		
第2回	なし	なし	なし
担当教員	高岡 哲子、辻 幸美、初見 温子		
第3回	なし	なし	なし
担当教員	高岡 哲子、辻 幸美、初見 温子		

第4回	なし	なし	なし
担当教員	高岡 哲子、辻 幸美、初見 温子		
第5回	なし	なし	なし
担当教員	高岡 哲子、辻 幸美、初見 温子		
第6回	なし	なし	なし
担当教員	高岡 哲子、辻 幸美、初見 温子		

第7回	なし	なし	なし
担当教員	高岡 哲子、辻 幸美、初見 温子		
第8回	なし	なし	なし
担当教員	高岡 哲子、辻 幸美、初見 温子		
第9回	なし	なし	なし
担当教員	高岡 哲子、辻 幸美、初見 温子		

第10回	なし	なし	なし
担当教員	高岡 哲子、辻 幸美、初見 温子		
第11回	なし	なし	なし
担当教員	高岡 哲子、辻 幸美、初見 温子		
第12回	なし	なし	なし
担当教員	高岡 哲子、辻 幸美、初見 温子		

第13回	なし	なし	なし
担当教員	高岡 哲子、辻 幸美、初見 温子		
第14回	なし	なし	なし
担当教員	高岡 哲子、辻 幸美、初見 温子		
第15回	なし	なし	なし
担当教員	高岡 哲子、辻 幸美、初見 温子		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	0	なし
その他	100	詳細については老年看護学実習実習要項を参照
教科書		
①北川公子ほか/系統看護学講座老年看護学/医学書院 ②上田敏ほか/ICFの理解と活用 /きょうされん ③山田律子ほか/生活機能から見た老年看護過程＋病態・生活機能関連図/医学書院		
参考文献		

必要時提示する。

履修条件・留意事項等

オリエンテーションで提示する。
提出物の類似、代筆、虚偽の報告などは全て不正とみなす。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 臨地実習					
科目名		小児看護学実習《2022カリ》				ナンバリング	4816
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	実習	単位	2
担当教員	横山 佳世、菅原 美保						
授業の位置づけ							
本科目は看護学科のディプロマポリシー「看護の対象となる人々とコミュニケーション能力を活用して円滑な関係を構築し、対象理解を深める能力を身につけている」「看護の基盤となる問題解決能力を活用して看護過程の展開や臨床判断を行うための基本的な能力を身につけている」「看護の専門知識を活用して健康の状態やその変化に応じて実践する能力を身につけている」と特に関係する。小児期にある対象に対し看護過程を展開し、看護実践能力を養う。 「小児看護学の基礎」「看護病態治療学Ⅱ」「小児看護学の展開Ⅰ・Ⅱ」で学んだ知識・技術を統合し、小児看護に必要な基本的知識、技術、態度と看護実践の基礎的能力を修得するための科目である。							
授業の概要							
様々な健康状態の子どもとその家族とのコミュニケーションを通して対象理解を深める。さらに、子どもと家族を取り巻く環境が子どもの成長・発達にどのような影響を与えるのか学習し、状況に応じた生活支援および健康の回復、維持・増進をはかるために必要な看護を学ぶ。							
到達目標							

1. 健康問題や入院が子どもと家族に及ぼす影響について説明でき、子どもの発達段階と健康レベルに応じた看護過程が展開できる
2. 健康問題をもつ子どもと家族の個別性を考慮した安全で安楽な看護が実践できる
3. 受け持ち患児と家族に展開した看護について説明できる
4. 集団保育を通して健康な乳幼児の成長・発達促進に必要な支援について説明できる
5. 障害をもつ小児への教育的支援について理解できる
6. 看護学生として、責任のある行動と役割を果たすことができる

授業の方法

実習前はオリエンテーションで提示した学修を行い実習に臨む。実習は病棟、保育園および学内で行う。詳細は小児看護学実習要項を参照。小児看護学臨地実習要項に沿って学習を進めるが、状況によっては変更になることがある。その場合は、事前に周知する。

ICT活用

双方型授業(Google forms を利用した意見集約と結果の開示)
自主学習支援(Google classroomを利用したレポート・課題提出、関連資料提供)

実務経験のある教員の教育内容

NICUや小児病棟で看護師として勤務した経験を活かし、小児とその家族への看護援助技術と看護過程の展開について指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

適宜、看護援助に同行し指導を行う。また、記載された実習記録物には指導コメントの記載とともに口頭による指導も行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	詳細については小児看護学実習実習要項を参照	詳細については小児看護学実習実習要項を参照	詳細については小児看護学実習実習要項を参照
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		
第2回	詳細については小児看護学実習実習要項を参照	詳細については小児看護学実習実習要項を参照	詳細については小児看護学実習実習要項を参照
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		
第3回	詳細については小児看護学実習実習要項を参照	詳細については小児看護学実習実習要項を参照	詳細については小児看護学実習実習要項を参照
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		

第4回	詳細については小児看護学実習実習要項を参照	詳細については小児看護学実習実習要項を参照	詳細については小児看護学実習実習要項を参照
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		
第5回	詳細については小児看護学実習実習要項を参照	詳細については小児看護学実習実習要項を参照	詳細については小児看護学実習実習要項を参照
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		
第6回	詳細については小児看護学実習実習要項を参照	詳細については小児看護学実習実習要項を参照	詳細については小児看護学実習実習要項を参照
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		

第7回	詳細については小児看護学実習実習要項を参照	詳細については小児看護学実習実習要項を参照	詳細については小児看護学実習実習要項を参照
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		
第8回	詳細については小児看護学実習実習要項を参照	詳細については小児看護学実習実習要項を参照	詳細については小児看護学実習実習要項を参照
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		
第9回	詳細については小児看護学実習実習要項を参照	詳細については小児看護学実習実習要項を参照	詳細については小児看護学実習実習要項を参照
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		

第10回	詳細については小児看護学実習実習要項を参照	詳細については小児看護学実習実習要項を参照	詳細については小児看護学実習実習要項を参照
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		
第11回	詳細については小児看護学実習実習要項を参照	詳細については小児看護学実習実習要項を参照	詳細については小児看護学実習実習要項を参照
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		
第12回	詳細については小児看護学実習実習要項を参照	詳細については小児看護学実習実習要項を参照	詳細については小児看護学実習実習要項を参照
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		

第13回	詳細については小児看護学実習実習要項を参照	詳細については小児看護学実習実習要項を参照	詳細については小児看護学実習実習要項を参照
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		
第14回	詳細については小児看護学実習実習要項を参照	詳細については小児看護学実習実習要項を参照	詳細については小児看護学実習実習要項を参照
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		
第15回	詳細については小児看護学実習実習要項を参照	詳細については小児看護学実習実習要項を参照	詳細については小児看護学実習実習要項を参照
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	実習目標の到達度、実習記録とレポート、事前学習課題、実習態度により総合的に評価する。
その他	0	
教科書		
小児看護学の基礎、小児看護学の展開Ⅰ・Ⅱ、看護病態治療学Ⅱで使用した教科書に準ずる。		
参考文献		

発達段階からみた小児看護過程＋病態関連図第4版／浅野みどり他／医学書院
病気がみえる vol.15 小児科/医療情報科学研究所編/メディックメディア
他、適宜提示する。

履修条件・留意事項等

本科目を履修するには「小児看護学の展開Ⅱ」の科目の単位取得が必要である。
評価対象物に不正行為が認められた場合はD判定となることもある。

備考欄

体調管理を行い、既習の内容を復習の上、実習に臨むこと。

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 臨地実習					
科目名		母性看護学実習《2022カリ》				ナンバリング	4818
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	実習	単位	2
担当教員	多賀 昌江、小堀 ゆかり						

授業の位置づけ

本学科のDP「看護の対象となる人々とコミュニケーション能力を活用して円滑な関係を構築し、対象理解を深める能力を身につけている」、「看護の基盤となる問題解決能力を活用して看護過程の展開や臨床判断を行うための基本的な能力を身につけている」、「看護の専門知識を活用して健康の状態やその変化に応じて実践する能力を身につけている」、「多様なケア環境に適した保健医療福祉チームのありかたと看護師の役割を理解できている」と関連した科目である。また、すべてのDPと関係している。これまで履修した「母性看護学の基礎」「母性看護学の展開Ⅰ」「母性看護学の展開Ⅱ」の総まとめとなる。母性看護に必要な基本的知識、技術、態度と看護実践の基礎的能力を修得するための科目である。

授業の概要

妊娠・分娩・産褥各期の母体と胎児または新生児の生理的变化や心理・社会的特徴を理解する。また、母子及びその家族に対する看護の実践をとおり、セルフケア能力や親役割の獲得と退院後の生活に向けた支援など周産期看護を学ぶ。

到達目標

1. 妊娠・分娩・産褥各期における女性の生理的・心理的・社会的な変化の実際を学び、必要な看護を实践できる。
2. 新生児期にある対象の生理的变化を理解し、健康状態についてアセスメントすることができる。
3. 周産期にある母子に必要な看護援助を考えることができる。
4. 母親と家族の妊娠・出産・子育てにおける心理的・社会的変化について説明することができる。
5. 子育ての現状と地域で行われている子育て支援の実際について挙げるすることができる。
6. 周産期にある母子に対して安全に配慮した行動をとることができる。

授業の方法

実習では、実習オリエンテーション、実技実習、子育て支援実習、助産院実習、学内実習、病棟実習、見学実習と実習報告会を行う。詳細はオリエンテーションにて説明する。

ICT活用

Google Classroomを用いて、実習に向けた資料の提示を行う。
Google Classroomの課題提出機能を用いて、実習レポートと課題の提出および実習記録のフィードバックを行う。

実務経験のある教員の教育内容

科目担当教員は全員助産師である。助産師として、産科や周産期母子医療センター、NICUなどに10年前後勤務した経験があり、臨床現場における周産期ケアと看護の実際について豊富な知識を有している。この臨床経験を活かし、母子とその家族の看護について実践的な実習指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

実習記録は、実習期間中に随時コメントをフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	実習方法と実習スケジュールは母性看護学実習要項を参照のこと。	関連授業の配布資料を整理し、ファイリングする。実習に必要な知識を理解しておく。学習ノートは提出期日までに記載する。	実習記録のまとめと各実習の実習レポート・課題は期日までに作成して提出すること。
担当教員	小堀 ゆかり、多賀 昌江		
第2回	なし	なし	なし
担当教員	小堀 ゆかり、多賀 昌江		
第3回	なし	なし	なし
担当教員	小堀 ゆかり、多賀 昌江		

第4回	なし	なし	なし
担当教員	小堀 ゆかり、多賀 昌江		
第5回	なし	なし	なし
担当教員	小堀 ゆかり、多賀 昌江		
第6回	なし	なし	なし
担当教員	小堀 ゆかり、多賀 昌江		

第7回	なし	なし	なし
担当教員	小堀 ゆかり、多賀 昌江		
第8回	なし	なし	なし
担当教員	小堀 ゆかり、多賀 昌江		
第9回	なし	なし	なし
担当教員	小堀 ゆかり、多賀 昌江		

第10回	なし	なし	なし
担当教員	小堀 ゆかり、多賀 昌江		
第11回	なし	なし	なし
担当教員	小堀 ゆかり、多賀 昌江		
第12回	なし	なし	なし
担当教員	小堀 ゆかり、多賀 昌江		

第13回	なし	なし	なし
担当教員	小堀 ゆかり、多賀 昌江		
第14回	なし	なし	なし
担当教員	小堀 ゆかり、多賀 昌江		
第15回	なし	なし	なし
担当教員	小堀 ゆかり、多賀 昌江		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	実習目標の到達度、実習記録およびレポートと課題から総合的に評価する。 実習評価基準は、実習要項を参照のこと。
その他	0	
教科書		
1) 母性看護学Ⅱ マタニティサイクル 大平光子編 南江堂 2) 母性・小児看護ぜんぶガイド第3版 古川亮子編 照林社		
参考文献		

- 1) ウェルネスの視点にもとづく母性看護過程第4版 太田操編著 医歯薬出版株式会社 電子版
2) Nursing Skills ELSEVIER

履修条件・留意事項等

- ・履修要件は学生便覧を参照のこと。実習記録およびレポートに不正行為が認められた場合はD判定となることがある。
- ・必要な抗体価検査の実施とワクチン接種状況について自己管理し、確認しておくこと。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 臨地実習					
科目名		精神看護学実習				ナンバリング	4820
配当年次	4年	開講学期	2025年度前期	区分	実習	単位	2
担当教員	井上 仁美、藤村 恵理子						

授業の位置づけ

DPの「看護の対象となる人々とコミュニケーション能力を活用して円滑な関係を構築し、対象理解を深める能力を身につけている。」「看護の基盤となる問題解決能力を活用して看護過程の展開や臨床判断を行うための基本的な能力を身につけている。」「看護の専門知識を活用して健康の状態やその変化に応じて実践する能力を身につけている。」と特に関係がある科目である。また、「社会の一員としての責任を有し、専門職倫理観を基盤としたヒューマンケアの基本的な能力を身につけている。」「多様なケア環境に適した保健医療福祉チームのありかたと看護師の役割を理解できている。」「学習への主体性を有し、自律的な行動ができ専門職者として研鑽し続ける基本的な能力を身につけている。」「科学的思考と創造的思考を活用して看護の発展と社会へ貢献できる研究の基本的な能力を身につけている。」と関係する科目である。精神障害をもつ人の理解を深め、看護実践をととして、治療場面や療養生活の過程における看護の役割を理解し、基礎的な看護を実践する能力を養う。精神看護学の基礎、看護病態治療学Ⅳ、精神看護学の展開Ⅰ・Ⅱと関連し、これらの科目を履修していることが条件であり、これら科目における学習の総まとめの科目である。

授業の概要

精神科病棟で一人の患者を受け持ち、セルフケアについてのアセスメントを行うことで生活者としての理解を深め、その人が望む生活や生き方が実現できるような支援を考え実施・評価する。オレム・アンダーウッドのモデルを用いて精神障害をもつ人を多面的に理解し看護過程を展開する。精神障害をもつ人を一人の人として先入観なく接し、生きづらさに共感し寄り添うことで看護者として誠実で真摯な態度やあり方を学ぶ。またプロセスレコードを用いて援助の人間関係の技法を習得する。

到達目標

1. 精神障害をもつ人を全人的に理解したうえで対象者について述べることができる。
2. 援助的に人間関係を築き発展させることができる。
3. セルフケア能力に焦点を当てたアセスメントを行い、看護過程を展開することができる。
4. 精神障害をもつ人やその家族に対する、療養生活の支援方法、リハビリテーション活動 の実際を知り、多職種間の協働関係における看護者の役割・機能について自分の考えを述べるすることができる。
5. 学生としての役割および責務を果たす言動をとることができる。

授業の方法

精神看護学臨地実習要項に沿って学習を進める。
 実習中にカンファレンスを実施し、積極的にディスカッションを行いながら、自身の考えを発言し自己開示をおこなう。
 実習中または最後に学生によるプレゼンテーションを行い学びを共有する。
 感染状況によっては臨地での実習が学内または遠隔に変更になることがある。その場合は、事前にお知らせする。

ICT活用

Google Classroomを随時使用して学習を進める。

実務経験のある教員の教育内容

本科目は精神保健医療において看護師の実務経験がある教員が担当する。

課題に対するフィードバックの方法

毎日の実習記録および看護過程の記録の指導は、提出後にそのつどコメントを教員が返し、カンファレンスの場では互いの議論をととして、随時フィードバックを行う。また、臨地実習終了後に教員と評価面接を行い、実施および評価についてフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	精神看護学実習要項参照 臨地での実習前に学内でオリエンテーションを行い、実習への理解を深め準備をすることができる。 精神看護専門看護師の方々がゲストスピーカーとして、実際の臨床における対象者とのコミュニケーションや妄想などの訴えがある際の対処などについてロールプレイングを行い、具体的に臨地での関係性をシミュレーションする。		
担当教員	井上 仁美、藤村 恵理子		
第2回	精神看護学実習要項参照		
担当教員	井上 仁美、藤村 恵理子		
第3回	精神看護学実習要項参照		
担当教員	井上 仁美、藤村 恵理子		

第4回	精神看護学実習要項参照		
担当教員	井上 仁美、藤村 恵理子		
第5回	精神看護学実習要項参照		
担当教員	井上 仁美、藤村 恵理子		
第6回	精神看護学実習要項参照		
担当教員	井上 仁美、藤村 恵理子		

第7回	精神看護学実習要項参照		
担当教員	井上 仁美、藤村 恵理子		
第8回	精神看護学実習要項参照		
担当教員	井上 仁美、藤村 恵理子		
第9回	精神看護学実習要項参照		
担当教員	井上 仁美、藤村 恵理子		

第10回	精神看護学実習要項参照		
担当教員	井上 仁美、藤村 恵理子		
第11回	精神看護学実習要項参照		
担当教員	井上 仁美、藤村 恵理子		
第12回	精神看護学実習要項参照		
担当教員	井上 仁美、藤村 恵理子		

第13回	精神看護学実習要項参照		
担当教員	井上 仁美、藤村 恵理子		
第14回	精神看護学実習要項参照		
担当教員	井上 仁美、藤村 恵理子		
第15回	精神看護学実習要項参照		
担当教員	井上 仁美、藤村 恵理子		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	試験は実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	精神看護学実習要項を参照すること。 出席日数の3分の1以上の欠席および遅刻・早退がある場合は評価の対象とならないことがある。 実習記録物の提出は指示した期限内に提出していることが必要である。 評価基準は実習目標の達成度(実習評価表)、実習記録、実習態度などから総合的に担当教員が評価する。
その他	0	なし。
教科書		
新体系 看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論／精神保健 第5版 新体系 看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護 第5版		
参考文献		

宇佐美しおり 鈴木啓子 パトリシア・アンダーウッド:オレムのセルフケアモデル 事例を用いた看護過程の展開 第2版 ニューヴェルヒロカワ
関連科目で使用したレジュメ等を活用する。そのほか適時、各自で文献を検索するなどして活用することが望ましい。

履修条件・留意事項等

精神看護学実習を履修するのに必要なすべての単位を修得していること。
事前に行われる実習オリエンテーションでの説明や注意事項をよく理解し、実習要項を熟読して臨地実習に臨んでください。
臨地実習は患者様はじめ、実習指導者や多くの方々の協力があつて行うことができます。
欠席や遅刻・早退をすると患者様は非常に心配されたり自責感をもつことがあります。体調管理に注意し、実習に専念できるよう準備してください。
精神看護学実習は、対象者と1対1で真摯に誠実に向き合い、寄り添うことではじめて看護を提供し患者様に還元できます。
臨地実習前に、精神看護専門看護師の方々がゲストスピーカーとして、実際の臨床における対象者とのコミュニケーションや妄想などの訴えがある際の対処などについてロールプレイングを行う。
これらの学習をとおして、学生自身も自分を振り返り、成長ができるような実習にすることが望まれます。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 臨地実習					
科目名		地域・在宅看護論実習《2022カリ》				ナンバリング	4822
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	実習	単位	2
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真						

授業の位置づけ

ディプロマポリシー「社会の一員としての責任を有し、専門職倫理観を基盤としたヒューマンケアの基本的な能力を身につけている。」「看護の対象となる人々とコミュニケーション能力を活用して円滑な関係を構築し、対象理解を深める能力を身につけている。」「看護の基盤となる問題解決能力を活用して看護過程の展開や臨床判断を行うための基本的な能力を身につけている。」「看護の専門知識を活用して健康の状態やその変化に応じて実践する能力を身につけている。」「多様なケア環境に適した保健医療福祉チームのありかたと看護師の役割を理解できている。」「学習への主体性を有し、自律的な行動ができ専門職者として研鑽し続ける基本的な能力を身につけている。」に関連する科目である。

授業の概要

看護の基盤となる問題探究能力と問題解決能力を活用して、看護過程の展開に必要な基本的な能力を養うため、地域における様々な健康レベルにある人々(疾病や障がいを持つ人とその 家族等)に対して、看護援助を展開するために必要な知識と基本的技術、及び、地域で生活する人々に対する在宅ケアサービスや在宅ケアシステムがどのように活用されているかを看護援助の実践の中から学ぶ。

到達目標

1.在宅療養者とその家族への看護を理解できる。 1) 在宅療養者(以下、療養者)及び家族の特性を健康レベル、発達段階、生活背景から理解する。 2) 療養者、および、家族の健康状態や生活状況から看護上の課題を明らかにできる。 3) 療養者、および、家族に必要な看護援助を考え、看護計画を立案できる。 4) 立案した看護計画をもとに実施し、評価できる。 2.地域の人々の生活を支援する社会資源とその活用方法を理解できる。 1) 療養者が利用している社会資源の内容について理解できる。 2) 療養者に必要な社会資源について理解できる、 3) 訪問看護の役割と機能について理解できる。 4) 地域包括支援センターの役割や機能について理解できる。 5) 子ども発達支援センターの役割や機能について理解できる。 6) 療養者および家族の健康課題を解決するために行われている関係機関との連携について理解できる。 7) 地域で生活する人々を支えるための保健・医療・福祉の多職種が協働する意義を理解できる。

授業の方法

臨地実習(訪問看護ステーション / 地域包括支援センター / 子ども発達支援センターにおいて、在宅看護の実際、地域で生活する人々を支えるための連携を学ぶ /)、学内実習(実習オリエンテーション、学内演習、学内での報告会による学びの共有とまとめ)を行う。

ICT活用

視聴覚教材を用いて、初日の学内日に訪問看護の実際について、イメージを促進する。

実務経験のある教員の教育内容

看護師・保健師の国家資格をもち、医療機関・訪問看護ステーション・介護保険事業所での実務経験を活用して指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

実習中、および、実習最終日に面接によりフィードバックを行います。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	詳細は実習要項を参照すること	なし	なし
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		
第2回	詳細は実習要項を参照すること	なし	なし
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		
第3回	詳細は実習要項を参照すること	なし	なし
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		

第4回	詳細は実習要項を参照すること	なし	なし
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		
第5回	詳細は実習要項を参照すること	なし	なし
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		
第6回	詳細は実習要項を参照すること	なし	なし
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		

第7回	詳細は実習要項を参照すること	なし	なし
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		
第8回	詳細は実習要項を参照すること	なし	なし
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		
第9回	詳細は実習要項を参照すること	なし	なし
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		

第10回	詳細は実習要項を参照すること	なし	なし
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		
第11回	詳細は実習要項を参照すること	なし	なし
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		
第12回	詳細は実習要項を参照すること	なし	なし
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		

第13回	詳細は実習要項を参照すること	なし	なし
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		
第14回	詳細は実習要項を参照すること	なし	なし
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		
第15回	詳細は実習要項を参照すること	なし	なし
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	学習状況と態度、毎日の記録内容、レポートから総合的に評価する。評価物に不正行為があった場合は、D判定となることがある。
その他	0	特になし。
教科書		
1年次・2年次・3年次で使用した教科書を用いる。		
参考文献		

実習開始時に紹介する。

履修条件・留意事項等

本科目を履修するには、「在宅看護学の基礎」「地域包括ケアシステム論」「家族看護学」「在宅看護学の展開Ⅰ」「在宅看護学の展開Ⅱ」の科目の単位取得が必要である。

備考欄

体調管理を行い、既習の内容を復習して臨んでください。

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 臨地実習					
科目名		在宅看護学実習《2021カリ》				ナンバリング	
配当年次	4年	開講学期	2025年度前期	区分	実習	単位	2
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真						

授業の位置づけ

ディプロマポリシー「看護を实践する能力を高めるために必要な知識・技術を修得している【知識・技能】」「保健医療福祉チームの一員としての役割を理解し、協働して活動する能力を高めることができる【知識・技能】」「状況を的確に判断し、その状況に応じたコミュニケーションがとれる【思考・判断・表現】」と関連し、在宅における在宅における疾病や障害を持つ人々とその家族に対して看護援助を展開するために必要な知識と基本的技術を習得する科目である。既習の在宅看護学概論・地域看護学概論・地域包括ケアシステム論・家族看護学・在宅看護学援助論Ⅰ・在宅看護学援助論Ⅱと関連し、看護援助の実践の中から学ぶ科目である。

授業の概要

在宅における疾病や障害を持つ人々とその家族に対して、看護援助を展開するために必要な知識と基本的技術を習得し、地域で生活する人々に対する在宅ケアサービスや在宅ケアシステムがどのように活用されているかについて、看護援助の実践の中から学ぶ。

到達目標

1.在宅療養者とその家族への看護を理解できる。 1) 在宅療養者(以下、療養者)及び家族の特性を健康レベル、発達段階、生活背景から理解する。 2) 療養者、および、家族の健康状態や生活状況から看護上の課題を明らかにし、援助計画を立案・実施・評価する。 2.地域の人々の生活を支援する社会資源とその活用方法を理解できる。 1)対象者が利用している社会資源の内容について説明できる。 2)対象者に必要な社会資源について説明できる。 3)在宅療養生活を支える保健・医療・福祉の多職種が協働する意義を説明できる。 4)対象者及び家族の健康問題解決のために行われている関係機関との連携方法を説明できる。
--

授業の方法

臨地実習(訪問看護ステーションをはじめとする在宅看護機関において、訪問看護師に同行し、在宅看護の実際を学ぶ)、学内実習(実習オリエンテーション、学内演習、学内での報告会による学びの共有とまとめ)を行う。
--

ICT活用

視聴覚教材を用いて、初日の学内日に訪問看護の実際について、イメージを促進する。
--

実務経験のある教員の教育内容

看護師・保健師の国家資格をもち、医療機関・訪問看護ステーション・介護保険事業所での実務経験を活用して指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

実習中、および、実習最終日に面接によりフィードバックを行います。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	詳細は実習要項を参照すること		
担当教員			
第2回			
担当教員			
第3回			
担当教員			

第4回			
担当教員			
第5回			
担当教員			
第6回			
担当教員			

第7回			
担当教員			
第8回			
担当教員			
第9回			
担当教員			

第10回			
担当教員			
第11回			
担当教員			
第12回			
担当教員			

第13回			
担当教員			
第14回			
担当教員			
第15回			
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	学習状況と態度、毎日の記録内容、レポートから総合的に評価する。評価物に不正行為があった場合は、D判定となることがある。
その他	0	特になし。
教科書		
1年次・2年次・3年次で使用した教科書を用いる。		
参考文献		

実習開始時に紹介する。

履修条件・留意事項等

本科目を履修するには、「在宅看護概論」「在宅看護・介護システム論」「家族看護学」「在宅看護援助論Ⅰ」「在宅看護援助論Ⅱ」の科目の単位取得が必要である。

備考欄

体調管理を行い、既習の内容を復習して臨んでください。

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 臨地実習					
科目名		臨床判断実習				ナンバリング	4828
配当年次	4年	開講学期	2025年度前期	区分	実習	単位	2
担当教員	小橋 拓真、高岡 哲子、木口 幸子、鹿内 あずさ、藤長 すが子						

授業の位置づけ

本実習では看護基礎専門科目を修了した看護4年生がこれまでの学びを活かし、治療場面や生活援助などの様々な看護場面で、臨床判断に必要な基礎的能力を養う。本学科のDPの「社会の一員としての責任を有し、専門職倫理観を基盤としたヒューマンケアの基本的な能力を身につけている。(思考・判断・表現)」 「看護の対象となる人々とコミュニケーション能力を活用して円滑な関係を構築し、対象理解を深める能力を身につけている。(知識・技能)」 「看護の基盤となる問題解決能力を活用して看護過程の展開や臨床判断を行うための基本的な能力を身につけている。(思考・判断・表現)」 「看護の専門知識を活用して健康の状態やその変化に応じて実践する能力を身につけている。(知識・技能)」 「多様なケア環境に適した保健医療福祉チームのありかたと看護師の役割を理解できている。(知識・技能)」 「学習への主体性を有し、自律的な行動ができ専門職者として研鑽し続ける基本的な能力を身につけている。(関心・意欲・態度)」 「科学的思考力と創造的思考力を活用して看護の発展と社会へ貢献できる研究の基本的な能力を身につけている。(思考・判断・表現)」に関連する科目である。

授業の概要

本科目は臨床判断に必要な基礎的能力を養うため、臨床推論が必要となる場面に着目して自ら行った看護上の判断を臨床判断の視点で再構成することで臨床判断を活用した振り返り方法を身につける。看護場面で臨床判断した経験を他者と共有し多角的な視点から検討することで、臨床判断をするために必要な能力について理解を深める。

到達目標

1. 対象者を統合的に把握し、看護師の看護行為を観察することを通じて臨床判断モデルのプロセスが理解できる。
2. 臨床判断モデルのプロセスを、自らの看護場面に適応できる。
3. 臨床判断場面を他者と共有し、多角的な視点から検討できる。
4. 看護学生としての役割・責務を果たすことができる。

授業の方法

臨床判断実習要項に沿って学習を進める。
 臨地実習では、臨床指導者と訪室し、看護師より聞き取った判断内容を整理したり、自身の看護場面で自分の考えを聞いてもらったり、日々の振り返りでフィードバックしたりして、臨床判断の思考のプロセスを学ぶ。
 実習中にカンファレンスを実施し、看護場面での臨床判断について他者と共有し、積極的にディスカッションをして多角的な視点から臨床判断の思考のプロセスを学ぶ。
 実習中に学生によるプレゼンテーションを行い、学びを共有する。
 感染状況によっては、臨地での実習が学内または遠隔に変更になることがある。その場合は、事前に通知する。

ICT活用

Google Classroomを適宜使用して学習を進める。

実務経験のある教員の教育内容

本科目は医療施設において、看護師の実務経験がある教員が担当する。

課題に対するフィードバックの方法

毎日の実習記録の指導は、提出後に教員がコメントを記載して返却し、カンファレンスでは、学生の報告や意見交換を通して随時フィードバックを行う。臨地実習終了後には、教員と個別評価面談を行い、評価内容についてフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	臨床判断実習要項参照		
担当教員	高岡 哲子、木口 幸子、鹿内 あずさ、藤長 すが子、小橋 拓真		
第2回	臨床判断実習要項参照		
担当教員	高岡 哲子、木口 幸子、鹿内 あずさ、藤長 すが子、小橋 拓真		
第3回	臨床判断実習要項参照		
担当教員	高岡 哲子、木口 幸子、鹿内 あずさ、藤長 すが子、小橋 拓真		

第4回	臨床判断実習要項参照		
担当教員	高岡 哲子、木口 幸子、鹿内 あずさ、藤長 すが子、小橋 拓真		
第5回	臨床判断実習要項参照		
担当教員	高岡 哲子、木口 幸子、鹿内 あずさ、藤長 すが子、小橋 拓真		
第6回	臨床判断実習要項参照		
担当教員	高岡 哲子、木口 幸子、鹿内 あずさ、藤長 すが子、小橋 拓真		

第7回	臨床判断実習要項参照		
担当教員	高岡 哲子、木口 幸子、鹿内 あずさ、藤長 すが子、小橋 拓真		
第8回	臨床判断実習要項参照		
担当教員	高岡 哲子、木口 幸子、鹿内 あずさ、藤長 すが子、小橋 拓真		
第9回	臨床判断実習要項参照		
担当教員	高岡 哲子、木口 幸子、鹿内 あずさ、藤長 すが子、小橋 拓真		

第10回	臨床判断実習要項参照		
担当教員	高岡 哲子、木口 幸子、鹿内 あずさ、藤長 すが子、小橋 拓真		
第11回	臨床判断実習要項参照		
担当教員	高岡 哲子、木口 幸子、鹿内 あずさ、藤長 すが子、小橋 拓真		
第12回	臨床判断実習要項参照		
担当教員	高岡 哲子、木口 幸子、鹿内 あずさ、藤長 すが子、小橋 拓真		

第13回	臨床判断実習要項参照		
担当教員	高岡 哲子、木口 幸子、鹿内 あずさ、藤長 すが子、小橋 拓真		
第14回	臨床判断実習要項参照		
担当教員	高岡 哲子、木口 幸子、鹿内 あずさ、藤長 すが子、小橋 拓真		
第15回	臨床判断実習要項参照		
担当教員	高岡 哲子、木口 幸子、鹿内 あずさ、藤長 すが子、小橋 拓真		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	試験は実施しない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	臨床判断実習要項を参照すること。 出席日数の3分の1以上の欠席および遅刻・早退がある場合は、評価の対象とならないことがある。 実習記録物の提出は指示した期間内に提出している必要がある。 評価基準は実習目標の達成度(実習評価表)、実習記録、実習態度などから総合的に担当教員が評価する。
その他	0	なし。
教科書		
なし。		
参考文献		

三浦友里子・奥裕美(2020)「臨床判断ティーチングメソッド」医学書院, 東京.

履修条件・留意事項等

なし.

備考欄

なし.

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 臨地実習					
科目名		看護実践マネジメント実習				ナンバリング	4824
配当年次	4年	開講学期	2025年度前期	区分	実習	単位	2
担当教員	坂東 奈穂美、水野 愛子						

授業の位置づけ

看護学科のディプロマポリシーである「看護の専門知識を活用して健康の状態やその変化に応じて実践する能力」を身につけ、「多様なケア環境に適した保健医療福祉チームのありかたと看護師の役割を理解」するための科目である。それまでに履修した専門科目の総まとめとなる。

授業の概要

本科目では、看護チームの組織・機能・マネジメントの実際を学び、保健医療福祉チームの一員として多職種との協働について理解する。そのうえで、看護の質向上と継続に向けて看護実践に必要な知識・技術を統合し、対象や場に応じた実践力を修得する。専門職業人としての責任と自己研鑽の必要性を理解する。そのために、チームメンバーと積極的にコミュニケーションをとり、対象の看護実践に必要な知識について自ら学習する態度を身につける。

到達目標

1. 医療施設における看護チームの組織・機能・マネジメントの実際について説明できる。
2. 保健医療福祉チームの一員として、多職種との連携・協働の実際について述べることができる。
3. 看護の継続と質保証に向けて看護実践に必要な知識・技術を統合し、対象(複数)や場に応じた看護を計画し参加できる。
4. 専門職業人として、より質の高い看護実践をめざし自己研鑽を継続する必要性を理解したうえで、看護ケアに参加できる。

授業の方法

継続統合看護学実習要項を用いてオリエンテーションを行い、実習する。
実習最終日にグループ発表を行い、学びの共有を行う。

ICT活用

状況に応じて、Google Classroomを用いて、実習オリエンテーションや実習記録の指導などを行う。

実務経験のある教員の教育内容

看護師としての勤務経験を活かし、看護師としてチームの中で働く場合に求められる専門知識と協働するための能力について、臨床の実習指導者とともに指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

状況に応じて、適宜、口頭によるフィードバックを行う。実習記録に対しコメントする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	看護実践マネジメント実習要項にしたがい実施する。日程は後日指定する。	関連する授業で使用した教科書、配布資料を見直して理解しておくこと。	実習記録を期日までに作成して提出すること。
担当教員			
第2回	なし	なし	なし
担当教員			
第3回	なし	なし	なし
担当教員			

第4回	なし	なし	なし
担当教員			
第5回	なし	なし	なし
担当教員			
第6回	なし	なし	なし
担当教員			

第7回	なし	なし	なし
担当教員			
第8回	なし	なし	なし
担当教員			
第9回	なし	なし	なし
担当教員			

第10回	なし	なし	なし
担当教員			
第11回	なし	なし	なし
担当教員			
第12回	なし	なし	なし
担当教員			

第13回	なし	なし	なし
担当教員			
第14回	なし	なし	なし
担当教員			
第15回	なし	なし	なし
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	90%:(実習目標の達成度70点、実習報告会での発表10点、実習への取り組み態度10点を評価点とする。) 10%:(実習終了後レポート10点を評価点とする。) 記録物などにおいて提出期限を過ぎて提出した場合は、減点対象とする。
その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		

授業の期間内に必要時、提示する。

履修条件・留意事項等

主体的に、かつ計画的に取り組むこと。

備考欄